

I 定点把握感染症  
(性感染症を除く)

## 定点把握感染症（性感染症を除く）

### 1. 平成 24 年のまとめ

平成 24 年の感染症発生動向調査事業の定点把握感染症（性感染症を除く）を概観して特徴的な事象について概要を述べたい。小児科定点からの報告のうち、定点あたり年平均の週間報告数で最も多かったのは例年通り感染性胃腸炎で、7.5 と最近 5 年間の報告数の平均値 6.2 と比較すると 21%増加した。次が A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎で、以下、水痘、RS ウイルス感染症、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱の順であった。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は平均報告数 1.7 で平年値 1.53 より 11%増加した。水痘は 1.26 とほぼ平年並みで、平均値 1.31 から 4%減少し、RS ウイルス感染症は 0.81 と平均値 0.57 から 43%の増加であった。ヘルパンギーナは 0.59 と平均値 0.69 から 14%減少し、咽頭結膜熱も 0.30 と平均値 0.32 から 6%の微減であった。例年に比べ本年の特徴は流行性耳下腺炎 (0.25)、手足口病 (0.20)、伝染性紅斑 (0.09) が平年に比べ、それぞれ 61, 77, 62%減少し、最近 5 年間で最も小さな流行となったことである。この理由は、手足口病、伝染性紅斑が H23 年度に大きな流行となり、流行性耳下腺炎は H22 年度が大きな流行年であったため、一般社会集団特に小児では依然抗体保有率が高い状態であるためと考えられる。

インフルエンザの年平均定点報告数は 5.86 で、過去 5 年間（例外的であった H21,22 年を除く）の平均 3.35 と比較し 75%の増加であった。

基幹定点報告ではマイコプラズマ肺炎の定点報告数は 1.08 で、最近 10 年間で最も大きな流行となった昨年平成 23 年と比べ 41%減少したが、平年よりは依然 26%増加している。平成 22 年度からマクロライド系抗生剤耐性菌による流行が顕著に持続しており、最近 6 年間では最も大きな流行となった。眼科定点および他の基幹定点対象疾患は例年とほぼ同様の報告数であった。

インフルエンザの定点医療機関数は、内科と小児科合せて 309 定点、昨年度より 10 増加した。小児科定点数も 200 と 5 増加し、眼科定点数 52 は昨年と変わらず、基幹定点数は 1 増加して 17 となった。

（文責：高橋）

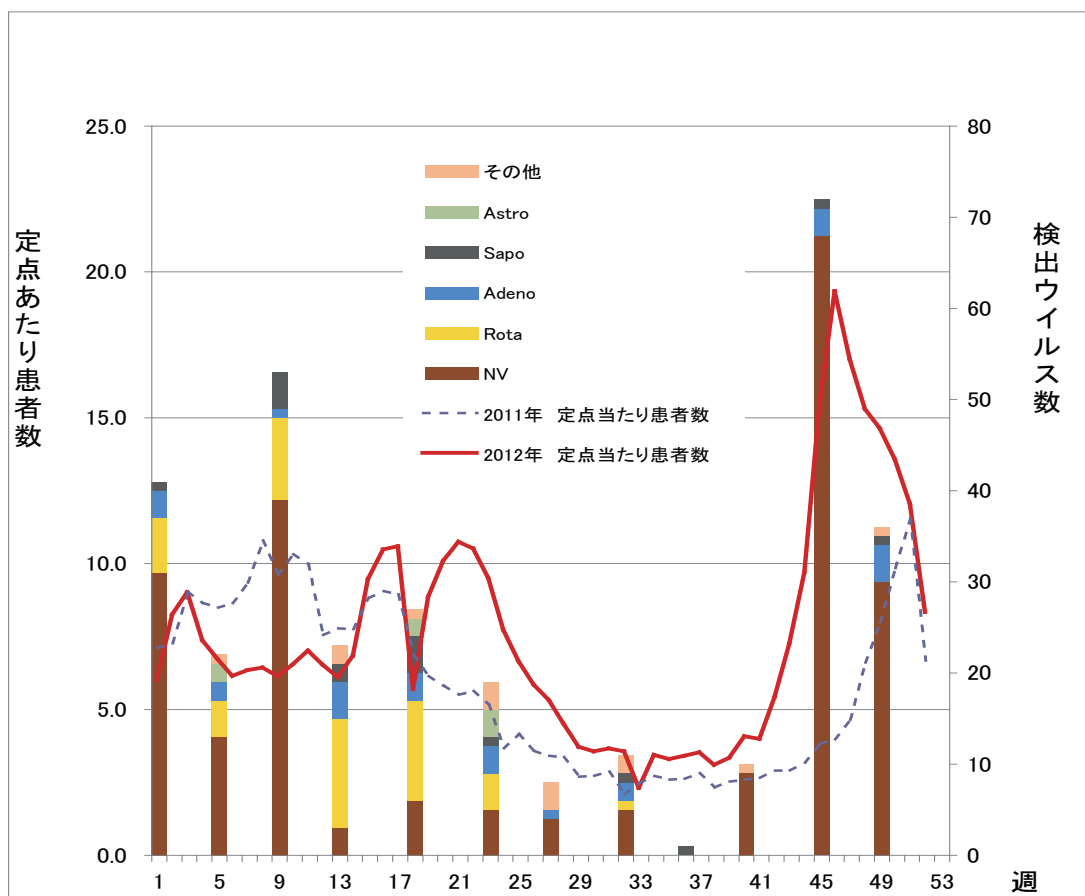
## 1) 平成24年に注目された感染症

### [ 感染性胃腸炎 ]

平成24年の感染性胃腸炎の患者数と検出ウイルス数を示す。(図1)

定点あたりの報告数の年平均は7.53で、本事業始まって以来の最高値であった平成22年の7.57に次ぐ値であった。患者発生のピークは第46週(定点あたり19.28)で、全国集計の第49週(19.63)より3週間早い発生であった。患者発生は第45週から第51週の7週間連続して10を超えていた。本年は第16週から第17週、第20週から第22週の期間においてもそれぞれ10を超えていた。第18週および第19週はそれぞれ5.63および8.79であったが、5月の連休の影響が考えられ、第16週から第22週の期間は継続した流行が考えられた。最低値は第33週の2.24である。

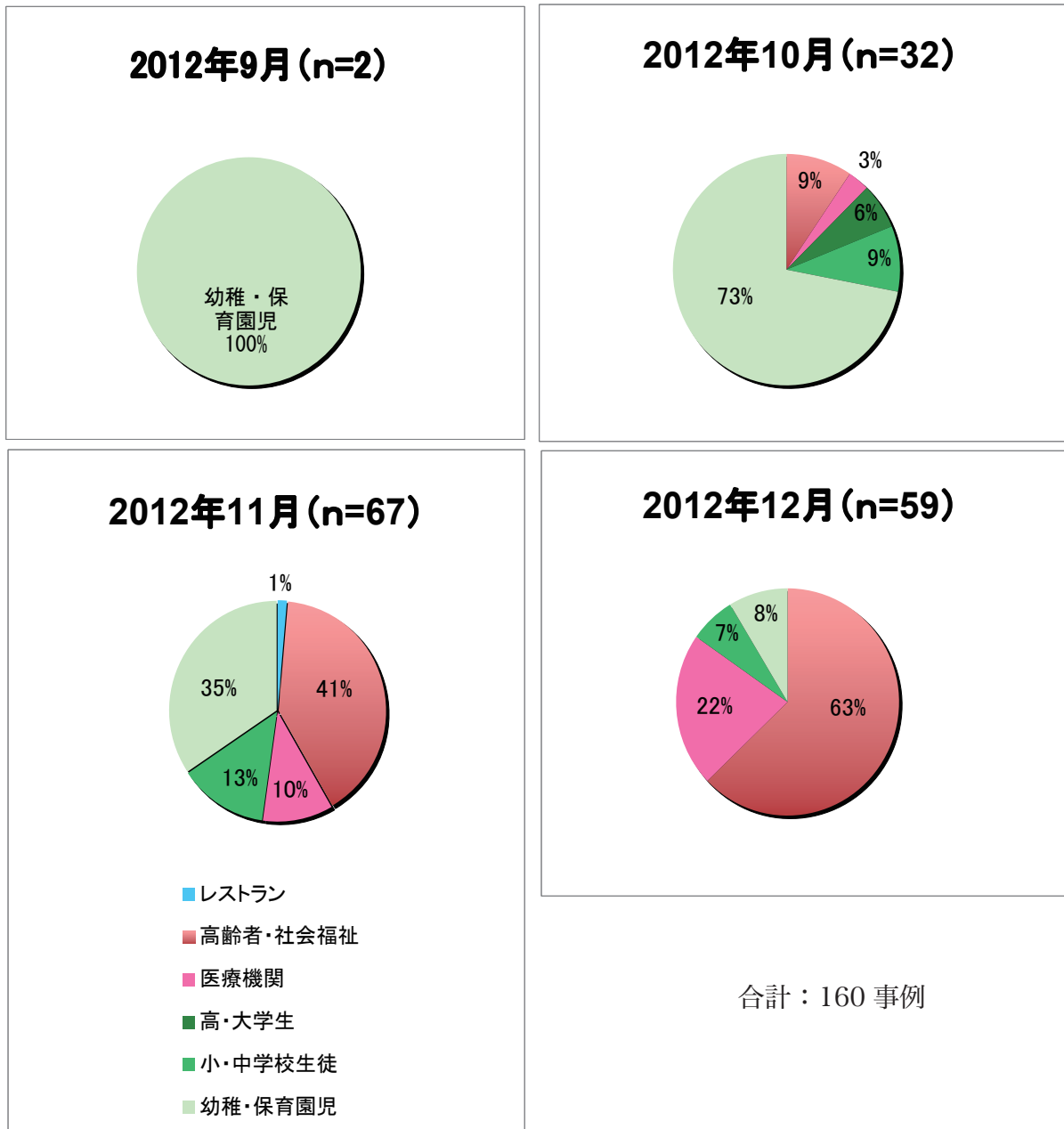
図1 2012年 感染性胃腸炎定点あたり患者数と検出ウイルス数(大阪府内計)



9月から12月に発生した感染性胃腸炎集団発生160事例の施設別発生頻度を経時的に見ると、幼稚園・保育所の発生から小中学生、そして医療機関、高齢者施設・福祉施設への感染拡大がわかる(図2、大阪府感染症情報センター <http://www.iph.pref.osaka.jp/infection/noro/noro.html> より)。

病原体定点からの感染性胃腸炎の検査数は440件であり、279件(陽性率63.4%)からウイルスが検出された。最も多かったのはノロウイルスGIIの172件であり、次いでA群ロタウイルス48

図2 大阪府における胃腸炎集団事例の発生施設(2012年9月～12月)



件、アデノウイルス 24 件、サポウイルス 18 件であった。他にアストロウイルス、エンテロウイルスなども検出されている。ノロウイルスは9月を除くすべての月で検出され、11月(67件)に最も多く検出された。11月から12月に検出されたノロウイルスの主な遺伝子型はキメラタイプのGII.4型で、同時期に全国的な大流行を起こしている遺伝子型であり、これは世界的に類似の型 Sydney/NEM0514/2012/AUであった。A群ロタウイルスは1月から5月の間に多く検出された。4月(11件)および5月(11件)に最も多く、第16週から第22週の期間に流行した感染性胃腸炎の主な原因ウイルスであった。

(文責：入谷、田中)

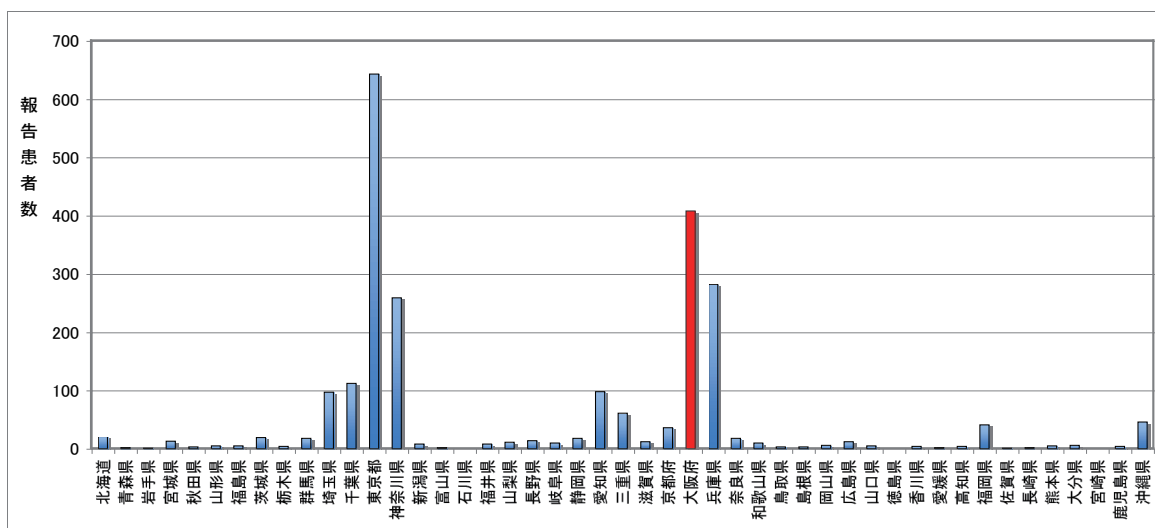
**【風しん】**

平成24年の風しん患者報告数は408例であった。平成23年の54例に比べ7.5倍増加した。平成20～22年は10-24例で推

	平成20	平成21	平成22	平成23	平成24
患者数	22	12	9	54	408

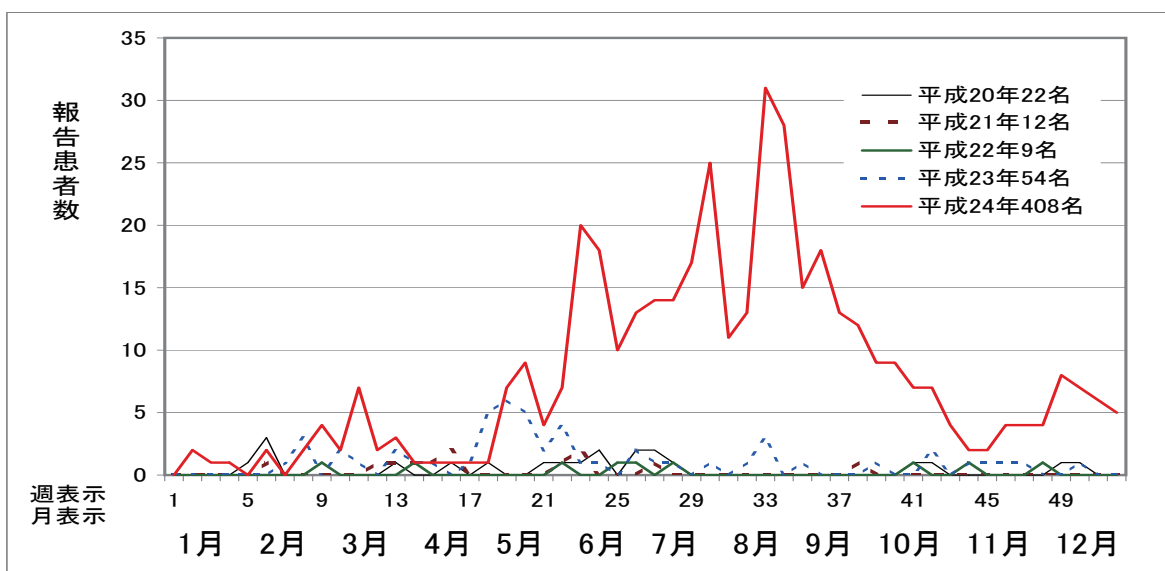
移しており、近年の患者数増加が顕著である。都道府県別では東京都643例に続き、大阪府は全国2番目（図1、棒グラフ赤）となっている。次いで兵庫県282例となっており、近畿圏での流行が目立つ。

図1 風しん患者報告数（全国）



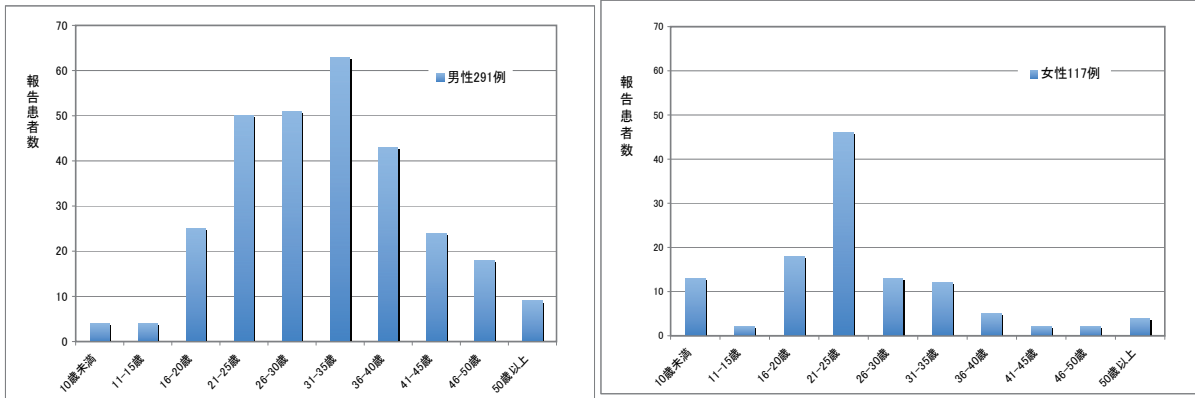
大阪府の週別報告の動向は、年初から数例で推移した報告数が5月頃より次第に増加し、33週の31例をピークとして6～9月中旬に各週10例以上の報告があった。報告数は9月末～10月にかけて徐々に減少したが、その後年初より多い報告数で推移し完全に終息することはなかった。

図2 風しん患者 週別報告数（平成20年～平成24年）



年齢別では31-40歳が123例で最も多く全体の30.1%を占め、以下26-30歳64例、41-50歳46例、16-20歳43例であった。性別では男性291例（71.3%）、女性117例（28.7%）で、男性の年齢中央値は31歳（範囲0-57歳）、女性は23歳（範囲0-62歳）であった。風しんは30-50歳代の男性のワクチン接種率および抗体保有率が低いとされるが、大阪府内では20-30歳代の男性が全体の48.8%を占め、流行の中心を形成したと考えられる。

図3 平成24年 風しん患者 性別・年齢別報告数



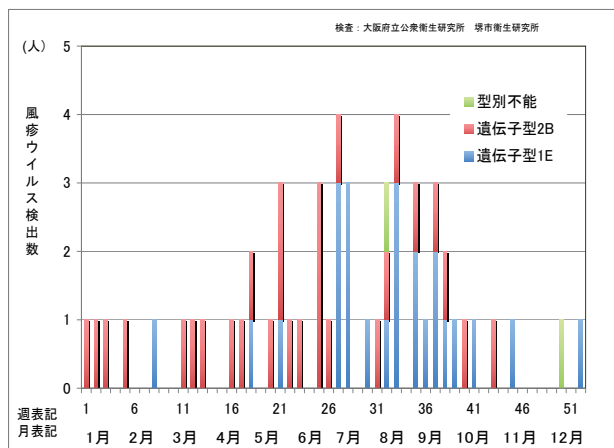
ブロック別では大阪市207名（北部80例、西部59例、東部55例、南部13例）を筆頭に、堺市44例、豊能40例、北河内32例、南河内26例、中河内22例の順であった。

風しんに特徴的とされる3兆候（発熱、発疹、リンパ節腫脹）をみたものは243例（59.7%）、発熱と発疹が109例（26.7%）、発熱とリンパ節腫脹26例（6.4%）、発疹のみ28例（6.9%）、発熱のみ1例（0.2%）であった。発熱と発疹を伴う例が86.5%を占めた。これに関連して、麻しんと風しんの類症鑑別問題がある。大阪府内では平成24年に101例がNESIDに麻しん症例として登録され、このうち4例が麻しんと診断され、97例（96.0%）が検査診断後に取り下げられた。取り下げ例のうち36例（37.1%）は風しんと鑑別された。これらの臨床症状は、発熱と発疹が大多数を占めた（88.8%）。これは報告された風しんの平均的な臨床像とよく一致する。風しんと修飾麻しんは、臨床症状に基づく鑑別が容易ではなく、検査診断の重要性が指摘される。

大阪府下でPCRにて風しんウイルスを検出した84症例についての経験をまとめると、検体種別のウイルス検出率は咽頭ぬぐい液が最も高く（71.4%）、続いて血液（44.0%）、尿（40.5%）の順であった。ウイルス検出率は発症翌日に採取された検体も最も高く、発症当日の検体も検出可能であった。検出期間は血液、咽頭ぬぐい液、尿検体から発症後それぞれ最長6、10、7日であった。

遺伝子型別に供された54検体において、風しんウイルスE1領域の部分配列に基づく系統樹解析を行った結果、遺伝子型2Bが28例、1Eが24例、型別不能が2例であった。平成24年の前半は2Bが中心の流行であったが、患者数が多い30週前後から1Eの検出が増加し、流行ピーク時には1Eと

図4 2012年に大阪府内に検出された風しんウイルスの遺伝子型の推移

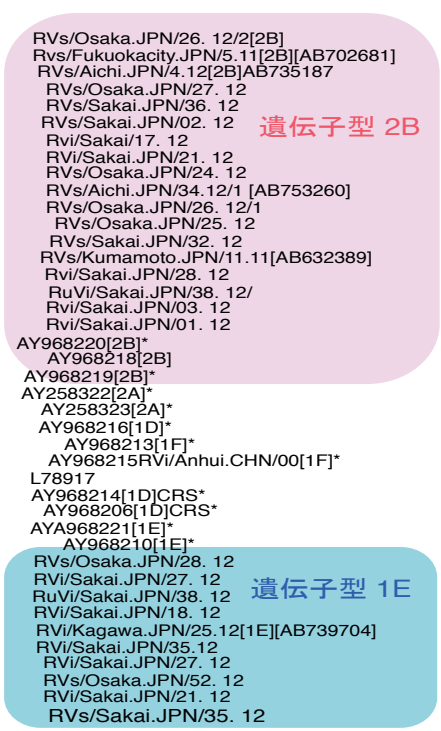


2Bは混在していた。その後も徐々に1Eの検出頻度が上がる傾向にある。現在の状況は、世界的な風しんの流行にともない2Bおよび1Eが国内に侵入し定着しつつあり、2Bから徐々に1Eを中心とした流行に移行する過程にあるとみられる。

平成24年末に先天性風しん症候群(CRS)が1例報告され、季節的な流行の結果を反映するとみられる。CRSは全国で5例報告され、これは平成16年の11例に次いで過去12年間で2番目に多い。母親のワクチン接種歴は無しまたは不明であった。兵庫県2例、香川県1例、埼玉県1例であり、近畿圏からの報告が目立つ。

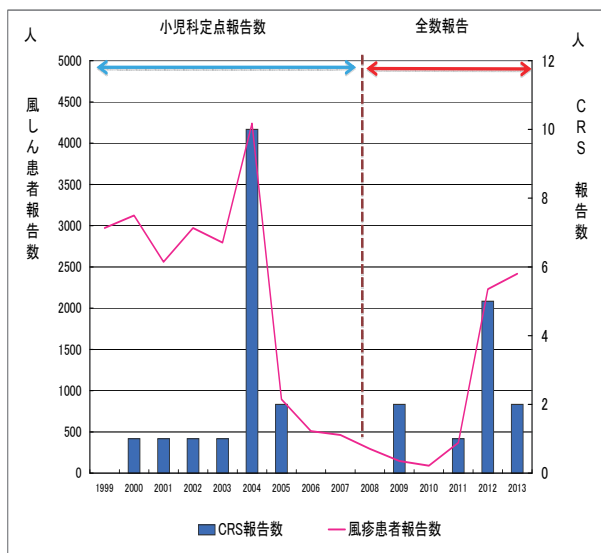
平成25年は年始より患者報告数が多く、平成24年を超える風しん流行が懸念されている。今後さらなるCRSの発生も危惧される。流行の中心と思われる青壮年期の男性が発疹と発熱をきたした場合、風しんを積極的に疑うことが重要と思われる。医療機関や行政のより積極的な啓発が必要であり、特に妊娠可能な年代の女性、家族が妊娠可能な年齢にある男性への注意喚起とワクチン接種の推奨が重要と考えられる。

図5 大阪府内の風しんウイルス系統樹解析



0.01

図6 風しん患者およびCRS報告数の推移



(文責：駒野)

## 平成 24 年 感染症発生動向調査 カレンダー

調査期間は月曜日から日曜日までの1週間を単位としています。

週	調査期間	週	調査期間	週	調査期間
1週	1/2 ~ 1/8	19週	5/7 ~ 5/13	37週	9/10 ~ 9/16
2週	1/9 ~ 1/15	20週	5/14 ~ 5/20	38週	9/17 ~ 9/23
3週	1/16 ~ 1/22	21週	5/21 ~ 5/27	39週	9/24 ~ 9/30
4週	1/23 ~ 1/29	22週	5/28 ~ 6/3	40週	10/1 ~ 10/7
5週	1/30 ~ 2/5	23週	6/4 ~ 6/10	41週	10/8 ~ 10/14
6週	2/6 ~ 2/12	24週	6/11 ~ 6/17	42週	10/15 ~ 10/21
7週	2/13 ~ 2/19	25週	6/18 ~ 6/24	43週	10/22 ~ 10/28
8週	2/20 ~ 2/26	26週	6/25 ~ 7/1	44週	10/29 ~ 11/4
9週	2/27 ~ 3/4	27週	7/2 ~ 7/8	45週	11/5 ~ 11/11
10週	3/5 ~ 3/11	28週	7/9 ~ 7/15	46週	11/12 ~ 11/18
11週	3/12 ~ 3/18	29週	7/16 ~ 7/22	47週	11/19 ~ 11/25
12週	3/19 ~ 3/25	30週	7/23 ~ 7/29	48週	11/26 ~ 12/2
13週	3/26 ~ 4/1	31週	7/30 ~ 8/5	49週	12/3 ~ 12/9
14週	4/2 ~ 4/8	32週	8/6 ~ 8/12	50週	12/10 ~ 12/16
15週	4/9 ~ 4/15	33週	8/13 ~ 8/19	51週	12/17 ~ 12/23
16週	4/16 ~ 4/22	34週	8/20 ~ 8/26	52週	12/24 ~ 12/30
17週	4/23 ~ 4/29	35週	8/27 ~ 9/2		
18週	4/30 ~ 5/6	36週	9/3 ~ 9/9		

## 2) 感染症別・週別患者情報

感染性胃腸炎の定点あたり平均年間報告数は7.5と最近5年間の報告数の平均値6.2と比較すると21%増加した。定点あたりの週別報告数の最高値は11月第46週の19.3であり、11月をピークに例年と比べ比較的大きな流行であった。この流行は遺伝子変異が認められたノロウイルス GII.4の流行が原因であると考えられる。2011/2012のシーズンは1月第3週をピーク8.96とする比較的小きな流行であった。RSウイルス感染症は0.81と最近の平均値0.57から43%の増加であった。週別報告数の最高値は12月第51週の2.11であり、12月をピークに例年と比べ比較的大きな流行であった。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は例年に比較し11%増加し、定点あたり報告数は1-3月は2弱の値で、4月17週に2を超え5月22週に最高値3.02となり7月27週に2を下回った。11月に再び増加し45週に2を超えた。他の期間は1前後で推移した。

水痘は例年と同様の流行状況であり、前年末から流行し、最高値は第2週の2.56で1月から6月まで流行し、11月46週から再び1を超えた。ヘルパンギーナは例年より14%減少し、例年通り6-8月に流行し、最高値は28週の4.05であった。咽頭結膜熱も例年より6.3%少し減少し、例年通り5-7月に流行し、最高値は27週の0.68であった。流行性耳下腺炎は例年より60.9%と大きく減少し、9月36週の0.44をピークとして一年を通して0.2前後の報告数で



推移した。手足口病は例年より76.9%と大幅に減少し、7月30週をピーク0.63とした小規模な流行であった。伝染性紅斑も例年より61.5%と大幅に減少し、1月3週をピーク0.32とした小規模な流行で、ほとんどが0.2以下の報告数であった。

マイコプラズマ肺炎の定点報告数は1.08で、例年より26%増加した。前年末から流行し、最高値は第1週の2.87で1年を通して1前後の値であり夏の期間も冬と同様な流行であった。

### 3) 感染症別・ブロック別患者報告状況

大阪府内を11ブロックに分け、各ブロックの構成市町村、定点数、人口、出生数ならびに1年間の総報告数を表(P20)に示した。小児科定点で定点あたりの報告数が最も多かったブロックは南河内、以下、中河内、北河内、泉州、豊能の順であった。

疾患別に見て南河内の定点あたりの報告数が最も高い疾患は、感染性胃腸炎、水痘、伝染性紅斑であり、北河内の報告数が最も高かった疾患は手足口病、百日咳、流行性耳下腺炎であった。咽頭結膜熱は泉州、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は堺市、ヘルパンギーナは中河内、急性出血性結膜炎は堺市と泉州、流行性角結膜炎は大阪市南部が最も高かった。

基幹定点からの報告では、マイコプラズマは大阪市南部が2.54と最も高く、次いで三島、豊能、中河内の順であった。インフルエンザの定点あたりの報告数は南河内が最も多く、以下、北河内、大阪市西部、泉州の順であった。

### 4) 感染症別・年齢別患者報告状況

インフルエンザ定点、基幹定点からの報告を除いた小児科定点における年齢別報告数で最も多かった年齢は1歳で、次いで2歳、3歳、4歳、0歳の順であった。3歳までの報告数は、全報告数の50.8%とほぼ半数を占めた。0歳において頻度の高い疾患は感染性胃腸炎、次いでRSウイルス感染症、突発性発疹であり、この3疾患で84%を占める。1歳では感染性胃腸炎、RSウイルス感染症、突発性発疹、水痘、突発性発疹であり、2歳で頻度の高い疾患は、感染性胃腸炎、水痘、ヘルパンギーナ、3歳では感染性胃腸炎、水痘、A群溶連菌咽頭炎である。個々の感染症の最好発年齢をみると、0歳はRSウイルス感染症、百日咳が最好発年齢で、1歳は感染性胃腸炎、RSウイルス感染症、突発性発疹、ヘルパンギーナ、手足口病、咽頭結膜熱が最も高頻度である。2歳では水痘が最も頻度が高かった。4歳はA群溶連菌咽頭炎、流行性耳下腺炎が最も多く、5歳では伝染性紅斑が最高頻度であった。この好発年齢の傾向は過去3年同様であった。1歳で最も報告数が多い感染性胃腸炎、RSウイルス感染症、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱、手足口病は母親からの移行抗体が消失後に比較的感染を受けやすい(伝播性の高い)疾患であることが推定される。一方、A群溶連菌咽頭炎、伝染性紅斑、流行性角結膜炎は4-5歳が好発年齢であり、保育所などでの集団生活開始後に罹患する、前者に比べ比較的伝播性の低い疾患であることが推定される。

インフルエンザは5歳で最も高頻度であったが、3歳から8歳までの間では頻度に大きな差を認めなかった。本年もインフルエンザを除外すると、すべての年齢で感染性胃腸炎の報告が最も高かった。

本年もインフルエンザを除外すると、すべての年齢で感染性胃腸炎の報告が最も高かった。

(文責：高橋)

## 平成24年 年平均の定点あたり報告数上位5疾患(大阪府内)

	1位		2位		3位		4位		5位		TOPICS
1週	感染性胃腸炎	1155	水痘	437	RSウイルス感染症	196	A群溶連菌咽頭炎	135	流行性耳下腺炎	73	インフルエンザ 増加続く
2	感染性胃腸炎	1601	水痘	500	A群溶連菌咽頭炎	259	RSウイルス感染症	185	突発性発しん	96	インフルエンザ さらに増加
3	感染性胃腸炎	1746	A群溶連菌咽頭炎	364	水痘	294	RSウイルス感染症	186	突発性発しん	86	インフルエンザ 急増
4	感染性胃腸炎	1413	水痘	347	A群溶連菌咽頭炎	346	RSウイルス感染症	182	突発性発しん	75	インフルエンザ 警報レベルを超える
5	感染性胃腸炎	1295	A群溶連菌咽頭炎	328	水痘	285	RSウイルス感染症	149	突発性発しん	64	インフルエンザ 微増
6	感染性胃腸炎	1155	A群溶連菌咽頭炎	349	水痘	247	RSウイルス感染症	145	突発性発しん	67	インフルエンザ ピークを超える
7	感染性胃腸炎	1197	A群溶連菌咽頭炎	355	水痘	311	RSウイルス感染症	152	突発性発しん	85	インフルエンザ さらに減少
8	感染性胃腸炎	1213	A群溶連菌咽頭炎	383	水痘	287	RSウイルス感染症	184	突発性発しん	85	インフルエンザ 減少続く
9	感染性胃腸炎	1174	A群溶連菌咽頭炎	368	水痘	339	RSウイルス感染症	197	突発性発しん	66	インフルエンザ 減少鈍る
10	感染性胃腸炎	1245	A群溶連菌咽頭炎	382	水痘	268	RSウイルス感染症	230	突発性発しん	75	インフルエンザ わずかに減少
11	感染性胃腸炎	1307	A群溶連菌咽頭炎	341	水痘	273	RSウイルス感染症	181	突発性発しん	61	インフルエンザ 減少
12	感染性胃腸炎	1245	水痘	297	A群溶連菌咽頭炎	281	RSウイルス感染症	127	突発性発しん	87	インフルエンザ さらに減少
13	感染性胃腸炎	1172	水痘	276	A群溶連菌咽頭炎	233	RSウイルス感染症	122	突発性発しん	81	インフルエンザ 終息へ
14	感染性胃腸炎	1275	水痘	263	A群溶連菌咽頭炎	258	RSウイルス感染症	125	突発性発しん	94	インフルエンザ 終息に向かう
15	感染性胃腸炎	1815	A群溶連菌咽頭炎	275	水痘	250	RSウイルス感染症	110	突発性発しん	108	感染性胃腸炎 増加
16	感染性胃腸炎	2017	A群溶連菌咽頭炎	316	水痘	267	突発性発しん	127	RSウイルス感染症	97	感染性胃腸炎 増加続く
17	感染性胃腸炎	1945	A群溶連菌咽頭炎	390	水痘	286	突発性発しん	112	RSウイルス感染症	60	感染性胃腸炎 微減
18	感染性胃腸炎	1109	水痘	214	A群溶連菌咽頭炎	163	突発性発しん	62	RSウイルス感染症	42	インフルエンザ 終息か
19	感染性胃腸炎	1725	A群溶連菌咽頭炎	414	水痘	405	突発性発しん	116	咽頭結膜熱	76	インフルエンザ 終息
20	感染性胃腸炎	1972	A群溶連菌咽頭炎	429	水痘	265	突発性発しん	90	咽頭結膜熱	85	感染性胃腸炎 増加
21	感染性胃腸炎	2054	A群溶連菌咽頭炎	455	水痘	328	突発性発しん	102	咽頭結膜熱	97	感染性胃腸炎 増加続く
22	感染性胃腸炎	2040	A群溶連菌咽頭炎	589	水痘	324	突発性発しん	137	咽頭結膜熱	99	風しんに注意
23	感染性胃腸炎	1842	A群溶連菌咽頭炎	514	水痘	344	突発性発しん	113	咽頭結膜熱	104	風しん 増加
24	感染性胃腸炎	1509	A群溶連菌咽頭炎	571	水痘	356	突発性発しん	126	咽頭結膜熱	120	A群溶連菌咽頭炎 増加
25	感染性胃腸炎	1289	A群溶連菌咽頭炎	485	水痘	326	ヘルパンギーナ	169	突発性発しん	121	ヘルパンギーナ 増加の兆し
26	感染性胃腸炎	1134	A群溶連菌咽頭炎	456	ヘルパンギーナ	333	水痘	279	突発性発しん	129	ヘルパンギーナ 増加
27	感染性胃腸炎	1033	ヘルパンギーナ	471	A群溶連菌咽頭炎	435	水痘	269	突発性発しん	134	ヘルパンギーナ さらに増加
28	感染性胃腸炎	835	ヘルパンギーナ	767	A群溶連菌咽頭炎	401	水痘	228	突発性発しん	134	ヘルパンギーナ 増加続く
29	ヘルパンギーナ	792	感染性胃腸炎	708	A群溶連菌咽頭炎	297	水痘	225	突発性発しん	122	ヘルパンギーナ 第1位に
30	ヘルパンギーナ	771	感染性胃腸炎	672	A群溶連菌咽頭炎	277	水痘	176	突発性発しん	142	ヘルパンギーナ ピーク越える
31	感染性胃腸炎	685	ヘルパンギーナ	627	A群溶連菌咽頭炎	213	水痘	145	突発性発しん	109	ヘルパンギーナ 減少
32	感染性胃腸炎	611	ヘルパンギーナ	422	A群溶連菌咽頭炎	193	水痘	123	突発性発しん	101	夏型感染症 減少続く
33	感染性胃腸炎	427	ヘルパンギーナ	197	A群溶連菌咽頭炎	135	水痘	101	突発性発しん	92	RSウイルス感染症 増加傾向
34	感染性胃腸炎	664	ヘルパンギーナ	206	A群溶連菌咽頭炎	161	突発性発しん	130	水痘	118	感染性胃腸炎 増加か
35	感染性胃腸炎	631	A群溶連菌咽頭炎	207	ヘルパンギーナ	174	突発性発しん	139	RSウイルス感染症	104	風しん 増加続く
36	感染性胃腸炎	660	A群溶連菌咽頭炎	205	RSウイルス感染症	174	ヘルパンギーナ	138	突発性発しん	136	RSウイルス感染症 増加
37	感染性胃腸炎	664	A群溶連菌咽頭炎	275	RSウイルス感染症	225	ヘルパンギーナ	150	突発性発しん	128	RSウイルス感染症 さらに増加
38	感染性胃腸炎	604	RSウイルス感染症	268	A群溶連菌咽頭炎	205	水痘	104	突発性発しん	92	RSウイルス感染症 増加続く
39	感染性胃腸炎	653	RSウイルス感染症	359	A群溶連菌咽頭炎	270	突発性発しん	137	水痘	98	RSウイルス感染症 さらに増加
40	感染性胃腸炎	781	RSウイルス感染症	362	A群溶連菌咽頭炎	249	突発性発しん	131	水痘	130	RSウイルス感染症 高水準続く
41	感染性胃腸炎	786	RSウイルス感染症	278	A群溶連菌咽頭炎	240	突発性発しん	98	水痘	89	RSウイルス感染症 減少
42	感染性胃腸炎	1072	A群溶連菌咽頭炎	243	RSウイルス感染症	241	突発性発しん	116	水痘	115	感染性胃腸炎 増加
43	感染性胃腸炎	1437	A群溶連菌咽頭炎	360	RSウイルス感染症	254	突発性発しん	126	水痘	123	感染性胃腸炎 増加続く
44	感染性胃腸炎	1923	A群溶連菌咽頭炎	300	RSウイルス感染症	221	水痘	183	突発性発しん	96	感染性胃腸炎 さらに増加
45	感染性胃腸炎	3085	A群溶連菌咽頭炎	406	RSウイルス感染症	242	水痘	175	突発性発しん	103	感染性胃腸炎 急増
46	感染性胃腸炎	3823	A群溶連菌咽頭炎	386	RSウイルス感染症	232	水痘	227	突発性発しん	96	感染性胃腸炎 増加続く
47	感染性胃腸炎	3370	A群溶連菌咽頭炎	358	RSウイルス感染症	236	水痘	221	突発性発しん	96	感染性胃腸炎 減少
48	感染性胃腸炎	3017	A群溶連菌咽頭炎	340	RSウイルス感染症	312	水痘	278	突発性発しん	110	感染性胃腸炎 減少続く
49	感染性胃腸炎	2886	A群溶連菌咽頭炎	463	RSウイルス感染症	344	水痘	264	突発性発しん	97	感染性胃腸炎 さらに減少
50	感染性胃腸炎	2674	A群溶連菌咽頭炎	417	RSウイルス感染症	380	水痘	341	突発性発しん	92	RSウイルス感染症 増加
51	感染性胃腸炎	2309	A群溶連菌咽頭炎	411	RSウイルス感染症	395	水痘	313	咽頭結膜熱	95	RSウイルス感染症 増加続く
52	感染性胃腸炎	1617	RSウイルス感染症	366	水痘	307	A群溶連菌咽頭炎	301	咽頭結膜熱	99	インフルエンザ 流行期に入る
	注1:疾患名は小児科定点の対象疾患です。				注2:週遅れデータは含まれていません。						
	注3:A群溶血性レンサ球菌咽頭炎はA群溶連菌咽頭炎と表示しています。										

平成24年 感染症別・週別報告状況(全国集計)

疾病名	月 週	1月				2月				3月				
		1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週
インフルエンザ		18,496	36,120	112,593	177,778	210,607	199,272	175,129	143,517	117,092	104,051	82,219	70,065	50,096
RSウイルス感染症		2,529	2,170	2,094	2,078	1,689	1,399	1,337	1,347	1,305	1,337	1,200	954	840
咽頭結膜熱		825	734	709	723	761	636	777	791	723	702	750	649	662
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		3,112	4,745	6,988	6,962	6,497	6,269	7,440	7,372	7,222	7,868	7,327	5,813	5,307
感染性胃腸炎		23,027	31,109	35,298	28,565	24,905	22,234	23,357	22,417	22,378	23,646	23,368	21,533	22,226
水痘		7,883	6,847	5,164	5,223	4,535	4,318	4,765	4,573	4,338	4,406	4,238	4,549	3,936
手足口病		627	545	619	558	451	401	340	348	274	263	287	248	255
伝染性紅斑		570	790	955	795	698	496	513	548	507	514	559	436	504
突発性発しん		1,119	1,794	1,658	1,571	1,371	1,276	1,429	1,438	1,428	1,453	1,416	1,455	1,577
百日咳		44	72	50	57	43	53	57	57	61	45	74	51	68
ヘルパンギーナ		53	56	63	53	43	48	46	43	39	50	61	47	75
流行性耳下腺炎		2,211	2,163	1,585	1,478	1,512	1,245	1,593	1,527	1,418	1,606	1,377	1,539	1,554
急性出血性結膜炎		8	9	9	3	7	13	16	13	12	16	6	16	7
流行性角結膜炎		408	406	355	371	400	384	417	396	350	333	318	291	308
合計(RSウイルス感染症 -流行性角結膜炎)		42,416	51,440	55,547	48,437	42,912	38,772	42,087	40,870	40,055	42,239	40,981	37,581	37,319
細菌性髄膜炎		7	5	13	7	9	7	9	7	10	10	8	9	11
無菌性髄膜炎		12	17	14	6	16	15	5	13	13	8	10	13	14
マイコプラズマ肺炎		532	434	457	369	377	395	392	387	364	373	369	348	332
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		11	13	14	11	10	13	14	15	12	14	13	9	13
合計(細菌性髄膜炎- クラミジア肺炎:オウム病を除く)		562	469	498	393	412	430	420	422	399	405	400	379	370

疾病名	月 週	7月				8月					9月			
		27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週
インフルエンザ		754	1,113	1,356	1,268	1,120	999	1,157	1,090	1,226	979	1,134	894	692
RSウイルス感染症		348	403	405	611	813	1,029	979	1,169	2,007	2,799	3,842	3,577	4,731
咽頭結膜熱		1,693	1,655	1,350	1,542	1,317	1,234	890	1,038	932	1,072	1,188	796	803
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		6,205	5,337	3,813	3,636	2,872	2,566	1,721	2,157	2,308	2,546	2,794	2,213	2,961
感染性胃腸炎		16,421	14,082	11,100	10,690	10,065	9,681	6,796	9,203	9,729	9,920	10,118	8,554	9,756
水痘		3,390	3,454	2,427	2,364	1,859	1,813	1,374	1,666	1,199	1,565	1,306	1,332	1,430
手足口病		2,107	2,933	3,053	3,713	3,741	3,233	1,953	2,069	2,539	2,791	3,093	2,792	3,045
伝染性紅斑		672	636	473	469	382	276	187	269	247	209	225	157	159
突発性発しん		2,094	2,208	1,968	2,187	2,086	1,974	1,382	2,137	2,366	2,214	2,229	1,691	2,071
百日咳		121	115	101	103	86	97	84	94	90	135	92	61	78
ヘルパンギーナ		9,643	13,900	13,704	13,733	10,963	7,734	3,610	3,772	3,576	3,150	2,777	1,791	1,606
流行性耳下腺炎		1,744	1,747	1,633	1,630	1,400	1,466	1,095	1,205	1,186	1,073	1,268	1,001	1,206
急性出血性結膜炎		12	10	10	8	12	9	5	7	10	9	3	2	6
流行性角結膜炎		369	359	380	369	429	403	394	448	467	417	421	352	415
合計(RSウイルス感染症 -流行性角結膜炎)														
細菌性髄膜炎		10	4	5	9	16	13	9	11	12	19	6	10	5
無菌性髄膜炎		14	25	23	43	29	29	27	33	25	18	39	29	26
マイコプラズマ肺炎		457	443	402	464	444	469	542	460	518	495	530	492	558
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		20	21	28	32	20	18	32	18	12	14	16	16	16
合計(細菌性髄膜炎- クラミジア肺炎:オウム病を除く)		501	493	458	548	509	529	610	522	567	546	591	547	605

## I 定点把握感染症(性感染症を除く)

4月				5月					6月			
14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
29,803	27,418	26,456	18,720	7,429	4,233	2,746	2,239	1,532	1,035	823	750	766
679	657	675	572	340	356	369	397	381	328	314	342	355
661	665	779	1,059	581	1,226	1,119	1,458	1,553	1,641	1,753	1,719	1,811
4,658	5,624	6,407	6,927	3,405	6,571	8,085	8,542	8,967	8,185	8,284	7,380	7,249
23,545	30,283	33,355	33,372	16,241	24,703	27,492	28,962	28,720	25,231	23,238	20,283	18,164
3,830	3,542	3,430	4,116	2,818	5,523	3,843	4,578	4,488	4,693	4,442	4,089	3,859
201	268	352	381	290	350	440	564	653	814	1,090	1,464	1,850
434	530	515	604	343	438	523	479	553	579	527	646	673
1,549	1,726	1,863	1,846	1,066	1,971	1,950	2,000	2,176	2,107	2,122	2,117	2,094
69	74	82	109	21	96	101	112	146	131	109	105	104
67	89	136	186	129	282	532	707	1,137	1,706	2,769	4,517	7,160
1,393	1,473	1,313	1,393	950	1,654	1,468	1,292	1,617	1,489	1,535	1,706	1,564
13	18	12	6	6	11	13	12	14	10	9	14	10
285	324	304	335	269	474	395	380	402	421	382	370	401
5	4	8	10	7	18	11	16	11	13	7	4	11
13	14	11	10	4	14	14	18	13	13	15	21	27
290	334	369	335	305	348	379	456	392	413	388	430	397
18	14	17	7	7	23	12	13	20	25	16	10	17

10月				11月					12月				合計
40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
447	292	253	317	371	536	686	1,096	1,533	2,839	5,807	11,009	16,414	1,676,367
5,065	3,654	3,774	3,551	3,101	3,533	3,396	3,315	3,741	4,026	4,039	4,243	3,815	98,010
642	464	552	602	615	864	958	1,004	1,158	1,330	1,422	1,500	1,352	53,440
3,189	2,740	3,555	3,882	3,876	5,240	5,259	4,971	5,563	6,494	6,326	6,939	4,783	277,152
9,967	9,375	11,791	14,628	17,694	27,695	35,996	41,145	56,902	62,014	60,727	53,568	35,726	1,230,995
1,452	1,677	1,589	2,290	2,492	3,461	4,064	4,613	5,458	5,647	6,647	6,834	6,284	195,713
2,696	2,186	2,015	1,997	1,725	1,865	1,725	1,458	1,322	1,369	1,331	1,134	1,004	72,822
157	133	117	137	121	154	129	134	144	152	171	164	163	20,966
1,860	1,706	1,862	1,910	1,714	1,913	1,861	1,590	1,723	1,559	1,547	1,488	1,315	92,227
66	57	69	82	78	71	89	62	60	61	42	62	40	4,087
1,165	709	462	412	320	266	237	188	175	139	121	168	133	114,548
1,193	1,036	1,261	1,010	1,061	1,256	1,051	999	1,190	1,093	1,060	1,151	877	71,547
6	4	10	8	3	5	10	6	5	10	5	10	8	476
440	368	358	352	276	390	396	330	424	440	429	435	371	19,711
7	8	3	16	4	16	4	8	7	8	6	9	11	473
39	12	13	17	21	15	17	17	18	10	16	14	14	926
602	514	614	603	617	593	621	502	567	508	508	440	418	23,346
16	22	15	25	24	17	27	22	17	26	15	17	19	886

平成24年 感染症別・週別定点あたり報告状況(全国集計)

疾病名	月	1月				2月				3月				
	週	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週
インフルエンザ		3.78	7.33	22.81	36.01	42.68	40.37	35.47	29.05	23.70	21.08	16.69	14.21	10.15
RSウイルス感染症		0.81	0.69	0.67	0.66	0.54	0.44	0.42	0.43	0.41	0.42	0.38	0.30	0.27
咽頭結膜熱		0.26	0.23	0.23	0.23	0.24	0.20	0.25	0.25	0.23	0.22	0.24	0.21	0.21
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.00	1.51	2.22	2.21	2.07	1.99	2.36	2.34	2.29	2.50	2.33	1.85	1.69
感染性胃腸炎		7.38	9.89	11.23	9.09	7.92	7.07	7.42	7.12	7.10	7.50	7.43	6.84	7.06
水痘		2.53	2.18	1.64	1.66	1.44	1.37	1.51	1.45	1.38	1.40	1.35	1.45	1.25
手足口病		0.20	0.17	0.20	0.18	0.14	0.13	0.11	0.11	0.09	0.08	0.09	0.08	0.08
伝染性紅斑		0.18	0.25	0.30	0.25	0.22	0.16	0.16	0.17	0.16	0.16	0.18	0.14	0.16
突発性発しん		0.36	0.57	0.53	0.50	0.44	0.41	0.45	0.46	0.45	0.46	0.45	0.46	0.50
百日咳		0.01	0.02	0.02	0.02	0.01	0.02	0.02	0.02	0.02	0.01	0.02	0.02	0.02
ヘルパンギーナ		0.02	0.02	0.02	0.02	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.02	0.02	0.01	0.02
流行性耳下腺炎		0.71	0.69	0.50	0.47	0.48	0.40	0.51	0.48	0.45	0.51	0.44	0.49	0.49
急性出血性結膜炎		0.01	0.01	0.01	0.00	0.01	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.01	0.02	0.01
流行性角結膜炎		0.61	0.60	0.53	0.55	0.59	0.57	0.61	0.58	0.51	0.49	0.47	0.43	0.45
細菌性髄膜炎		0.01	0.01	0.03	0.01	0.02	0.01	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02
無菌性髄膜炎		0.03	0.04	0.03	0.01	0.03	0.03	0.01	0.03	0.03	0.02	0.02	0.03	0.03
マイコプラズマ肺炎		1.14	0.93	0.98	0.79	0.81	0.85	0.84	0.83	0.78	0.80	0.79	0.75	0.71
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0.02	0.03	0.03	0.02	0.02	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.02	0.03

疾病名	月	7月				8月				9月				
	週	27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週
インフルエンザ		0.15	0.23	0.28	0.26	0.23	0.21	0.24	0.22	0.25	0.20	0.23	0.18	0.14
RSウイルス感染症		0.11	0.13	0.13	0.19	0.26	0.33	0.33	0.37	0.64	0.89	1.22	1.14	1.50
咽頭結膜熱		0.54	0.53	0.43	0.49	0.42	0.40	0.30	0.33	0.30	0.34	0.38	0.25	0.25
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.97	1.70	1.21	1.15	0.91	0.83	0.57	0.69	0.73	0.81	0.89	0.71	0.94
感染性胃腸炎		5.20	4.49	3.52	3.39	3.20	3.14	2.26	2.95	3.10	3.15	3.22	2.73	3.09
水痘		1.07	1.10	0.77	0.75	0.59	0.59	0.46	0.53	0.38	0.50	0.42	0.42	0.45
手足口病		0.67	0.94	0.97	1.18	1.19	1.05	0.65	0.66	0.81	0.89	0.99	0.89	0.97
伝染性紅斑		0.21	0.20	0.15	0.15	0.12	0.09	0.06	0.09	0.08	0.07	0.07	0.05	0.05
突発性発しん		0.66	0.70	0.62	0.69	0.66	0.64	0.46	0.68	0.75	0.70	0.71	0.54	0.66
百日咳		0.04	0.04	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.04	0.03	0.02	0.02
ヘルパンギーナ		3.06	4.43	4.35	4.36	3.49	2.51	1.20	1.21	1.14	1.00	0.88	0.57	0.51
流行性耳下腺炎		0.55	0.56	0.52	0.52	0.45	0.48	0.36	0.39	0.38	0.34	0.40	0.32	0.38
急性出血性結膜炎		0.02	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.00	0.00	0.01
流行性角結膜炎		0.54	0.53	0.56	0.54	0.63	0.61	0.59	0.65	0.68	0.61	0.62	0.51	0.60
細菌性髄膜炎		0.02	0.01	0.01	0.02	0.03	0.03	0.02	0.02	0.03	0.04	0.01	0.02	0.01
無菌性髄膜炎		0.03	0.05	0.05	0.09	0.06	0.06	0.06	0.07	0.05	0.04	0.08	0.06	0.06
マイコプラズマ肺炎		0.98	0.95	0.86	0.99	0.95	1.00	1.16	0.98	1.10	1.06	1.13	1.05	1.20
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0.04	0.04	0.06	0.07	0.04	0.04	0.07	0.04	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03

## I 定点把握感染症(性感染症を除く)

4月				5月					6月			
14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
6.05	5.56	5.36	3.82	1.53	0.86	0.56	0.45	0.31	0.21	0.17	0.15	0.16
0.22	0.21	0.21	0.18	0.11	0.11	0.12	0.13	0.12	0.10	0.10	0.11	0.11
0.21	0.21	0.25	0.34	0.19	0.39	0.35	0.46	0.49	0.52	0.56	0.55	0.57
1.48	1.78	2.03	2.21	1.10	2.08	2.56	2.71	2.84	2.60	2.62	2.34	2.30
7.48	9.60	10.57	10.63	5.23	7.83	8.71	9.18	9.10	8.00	7.36	6.43	5.76
1.22	1.12	1.09	1.31	0.91	1.75	1.22	1.45	1.42	1.49	1.41	1.30	1.22
0.06	0.08	0.11	0.12	0.09	0.11	0.14	0.18	0.21	0.26	0.35	0.46	0.59
0.14	0.17	0.16	0.19	0.11	0.14	0.17	0.15	0.18	0.18	0.17	0.20	0.21
0.49	0.55	0.59	0.59	0.34	0.63	0.62	0.63	0.69	0.67	0.67	0.67	0.66
0.02	0.02	0.03	0.03	0.01	0.03	0.03	0.04	0.05	0.04	0.03	0.03	0.03
0.02	0.03	0.04	0.06	0.04	0.09	0.17	0.22	0.36	0.54	0.88	1.43	2.27
0.44	0.47	0.42	0.44	0.31	0.52	0.47	0.41	0.51	0.47	0.49	0.54	0.50
0.02	0.03	0.02	0.01	0.01	0.02	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01	0.02	0.01
0.42	0.48	0.44	0.50	0.40	0.70	0.58	0.56	0.59	0.62	0.56	0.54	0.59
0.01	0.01	0.02	0.02	0.02	0.04	0.02	0.03	0.02	0.03	0.01	0.01	0.02
0.03	0.03	0.02	0.02	0.01	0.03	0.03	0.04	0.03	0.03	0.03	0.04	0.06
0.62	0.72	0.79	0.72	0.65	0.74	0.81	0.97	0.84	0.88	0.83	0.91	0.85
0.04	0.03	0.04	0.02	0.02	0.05	0.03	0.03	0.04	0.05	0.03	0.02	0.04

10月				11月					12月				平均
40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
0.09	0.06	0.05	0.06	0.08	0.11	0.14	0.22	0.31	0.57	1.18	2.23	3.34	6.56
1.61	1.16	1.20	1.13	0.98	1.12	1.08	1.05	1.19	1.27	1.28	1.35	1.22	0.60
0.20	0.15	0.18	0.19	0.19	0.27	0.30	0.32	0.37	0.42	0.45	0.48	0.43	0.33
1.01	0.87	1.13	1.23	1.23	1.66	1.67	1.58	1.76	2.06	2.01	2.20	1.52	1.70
3.17	2.97	3.74	4.64	5.61	8.78	11.42	13.04	18.04	19.63	19.25	17.01	11.38	7.53
0.46	0.53	0.50	0.73	0.79	1.10	1.29	1.46	1.73	1.79	2.11	2.17	2.00	1.20
0.86	0.69	0.64	0.63	0.55	0.59	0.55	0.46	0.42	0.43	0.42	0.36	0.32	0.45
0.05	0.04	0.04	0.04	0.04	0.05	0.04	0.04	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.13
0.59	0.54	0.59	0.61	0.54	0.61	0.59	0.50	0.55	0.49	0.49	0.47	0.42	0.56
0.02	0.02	0.02	0.03	0.02	0.02	0.03	0.02	0.02	0.02	0.01	0.02	0.01	0.03
0.37	0.22	0.15	0.13	0.10	0.08	0.08	0.06	0.06	0.04	0.04	0.05	0.04	0.70
0.38	0.33	0.40	0.32	0.34	0.40	0.33	0.32	0.38	0.35	0.34	0.37	0.28	0.44
0.01	0.01	0.01	0.01	0.00	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
0.64	0.54	0.52	0.51	0.40	0.57	0.58	0.48	0.62	0.64	0.63	0.64	0.55	0.56
0.01	0.02	0.01	0.03	0.01	0.03	0.01	0.02	0.01	0.02	0.01	0.02	0.02	0.02
0.08	0.03	0.03	0.04	0.04	0.03	0.04	0.04	0.04	0.02	0.03	0.03	0.03	0.04
1.28	1.09	1.31	1.28	1.32	1.27	1.32	1.07	1.21	1.08	1.08	0.94	0.89	0.96
0.03	0.05	0.03	0.05	0.05	0.04	0.06	0.05	0.04	0.06	0.03	0.04	0.04	0.04

平成24年 感染症別・週別報告状況(大阪府内集計)

		月	1月				2月				3月				
		週	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週
	定 点 数	*1 インフルエンザ	301	300	299	299	299	297	297	297	298	297	297	297	296
		*2 小児科	196	196	195	195	195	194	194	194	194	194	194	194	194
		*3 眼科	47	47	47	47	47	47	47	48	47	47	48	48	48
疾病名		*4 基幹	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
*1		インフルエンザ	1,423	2,713	9,002	13,472	13,525	10,092	7,748	6,052	5,350	5,144	4,492	4,026	2,724
		RSウイルス感染症	198	186	190	183	149	147	152	186	197	230	186	128	127
		咽頭結膜熱	31	22	24	22	24	21	24	34	22	31	30	11	24
		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	135	259	366	347	328	354	382	383	368	382	355	283	233
		感染性胃腸炎	1,167	1,606	1,747	1,425	1,301	1,181	1,218	1,236	1,177	1,258	1,348	1,256	1,172
		水痘	442	501	297	352	285	249	313	298	341	273	289	298	277
		*2 手足口病	29	28	40	26	18	15	22	21	10	4	17	11	10
		伝染性紅斑	33	43	63	47	38	21	22	25	28	27	30	26	10
		突発性発しん	71	96	86	76	64	67	85	88	67	75	61	87	82
		百日咳	5	5	3	2	4	4	5	3	6	3	5	7	1
		ヘルパンギーナ	3	7	5	6	5	5	9	8	4	3	4	4	5
		流行性耳下腺炎	75	67	36	34	40	43	41	40	37	40	28	39	52
		*3 急性出血性結膜炎	1	0	0	0	0	0	0	1	4	1	0	3	2
		流行性角結膜炎	11	6	7	10	11	11	12	10	8	5	12	4	4
		合計(RSウイルス感染症 - 流行性角結膜炎)	2,201	2,826	2,864	2,530	2,267	2,118	2,285	2,333	2,269	2,332	2,365	2,157	1,999
		*4 細菌性髄膜炎	1	1	2	1	0	0	1	0	0	0	1	1	0
		無菌性髄膜炎	0	0	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0
		マイコプラズマ肺炎	43	16	16	20	23	21	16	20	14	11	27	9	22
		クラミア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
		合計(細菌性髄膜炎- クラミア肺炎:オウム病を除く)	44	17	19	21	24	22	18	21	14	11	28	10	22
		月	7月				8月					9月			
		週	27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週
	定 点 数	*1 インフルエンザ	300	300	300	300	300	300	300	303	303	304	306	306	306
		*2 小児科	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	199	199	199
		*3 眼科	48	48	48	48	48	48	48	50	51	52	52	52	52
疾病名		*4 基幹	16	16	16	16	17	17	17	17	17	17	17	17	17
*1		インフルエンザ	6	3	2	6	4	5	9	3	4	5	9	3	4
		RSウイルス感染症	17	18	7	49	55	63	83	63	104	174	241	268	360
		咽頭結膜熱	133	113	80	97	90	94	53	72	60	76	79	62	56
		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	435	412	298	293	221	241	135	161	207	205	282	205	270
		感染性胃腸炎	1,036	877	720	689	710	689	442	665	639	660	691	604	653
		水痘	270	239	226	181	148	142	105	120	74	110	109	104	98
		*2 手足口病	95	85	119	124	104	70	40	52	61	55	42	36	47
		伝染性紅斑	19	19	17	32	28	10	6	5	4	5	7	5	9
		突発性発しん	134	139	124	145	112	115	93	133	139	136	131	92	137
		百日咳	7	5	11	6	6	11	6	3	5	4	8	7	6
		ヘルパンギーナ	472	798	796	794	639	464	200	208	174	138	153	67	68
		流行性耳下腺炎	65	70	66	77	67	58	44	45	62	86	40	56	43
		*3 急性出血性結膜炎	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	1	0	1
		流行性角結膜炎	6	12	5	11	7	14	10	13	19	20	11	17	16
		合計(RSウイルス感染症 - 流行性角結膜炎)	2,689	2,787	2,469	2,498	2,188	1,972	1,218	1,540	1,548	1,669	1,795	1,523	1,764
		*4 細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0
		無菌性髄膜炎	0	3	0	2	1	1	1	3	1	2	2	0	2
		マイコプラズマ肺炎	17	13	14	20	20	12	12	21	25	12	18	17	20
		クラミア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0
		合計(細菌性髄膜炎- クラミア肺炎:オウム病を除く)	17	16	14	22	22	13	14	25	29	15	20	17	22

I 定点把握感染症（性感染症を除く）

4月				5月					6月			
14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
295	295	298	298	298	298	299	301	301	301	301	301	301
194	194	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197
48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48
15	15	15	15	15	16	16	16	16	16	16	16	16
1,641	1,296	1,072	674	180	111	45	40	24	11	6	8	5
126	111	99	62	43	39	37	39	17	24	10	20	25
23	26	30	49	32	77	85	107	100	104	120	114	109
266	278	316	398	163	414	429	466	594	515	571	492	456
1,315	1,825	2,053	2,074	1,110	1,732	1,978	2,104	2,058	1,860	1,509	1,298	1,140
273	250	267	303	214	408	265	339	328	349	356	328	279
11	6	17	19	17	28	23	26	32	42	43	84	72
13	23	24	26	18	9	17	10	18	19	19	26	25
99	108	127	120	62	116	90	108	138	116	126	122	129
8	3	4	2	1	6	6	5	14	12	7	5	4
8	6	8	8	10	6	36	36	38	49	82	172	333
36	54	51	43	39	60	42	43	43	57	50	70	67
0	1	2	0	0	0	0	2	3	0	2	1	0
7	10	11	15	10	13	11	9	12	14	10	13	7
2,185	2,701	3,009	3,119	1,719	2,908	3,019	3,294	3,395	3,161	2,905	2,745	2,646
0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	1
18	16	20	15	15	23	9	21	19	14	8	12	14
0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0
19	16	21	15	15	25	9	22	20	14	9	13	15

10月				11月					12月				合計
40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
307	307	307	307	308	308	307	307	306	306	306	306	305	15676
200	200	200	200	200	200	199	199	198	198	198	198	197	10238
52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	2560
17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	836
5	9	4	6	11	18	15	40	47	93	190	232	242	91,851
374	278	241	254	221	242	233	236	312	344	381	417	364	8,310
44	36	34	34	24	38	49	55	55	72	90	94	97	3,083
260	240	243	360	300	406	389	358	340	463	417	424	301	17,399
804	786	1,072	1,437	1,927	3,085	3,836	3,370	3,017	2,886	2,674	2,373	1,632	77,122
130	89	115	123	184	175	232	221	278	264	342	323	307	12,883
50	40	34	38	33	24	26	24	32	34	32	26	33	2,027
8	11	4	8	7	9	12	4	9	6	8	8	7	927
133	98	116	126	96	103	99	96	110	97	92	91	65	5,418
6	2	4	11	7	1	6	4	6	7	1	4	1	275
39	33	19	10	9	7	4	10	5	7	6	7	4	5,991
54	53	66	40	42	42	32	34	45	31	33	31	27	2,536
1	1	0	2	1	1	1	0	1	1	0	0	0	37
15	15	14	12	19	9	8	8	15	23	10	17	19	598
1,918	1,682	1,962	2,455	2,870	4,142	4,927	4,420	4,225	4,235	4,086	3,815	2,857	136,606
0	0	1	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	18
5	0	1	0	1	0	2	1	1	0	0	0	2	40
20	16	29	21	23	25	15	10	9	11	10	12	16	900
0	0	0	1	0	1	2	1	0	0	0	1	1	13
25	16	31	22	24	26	21	12	11	11	10	13	19	971



平成24年感染症別・週別定点あたり報告状況(大阪府内集計)

		月	1月				2月				3月				
		週	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週
定点数	*1	インフルエンザ	301	300	299	299	299	297	297	297	298	297	297	297	296
	*2	小児科	196	196	195	195	195	194	194	194	194	194	194	194	194
	*3	眼科	47	47	47	47	47	47	47	48	47	47	48	48	48
	*4	基幹	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
疾病名	*1	インフルエンザ	4.73	9.04	30.11	45.06	45.23	33.98	26.09	20.38	17.95	17.32	15.12	13.56	9.20
*2		RSウイルス感染症	1.01	0.95	0.97	0.94	0.76	0.76	0.78	0.96	1.02	1.19	0.96	0.66	0.65
		咽頭結膜熱	0.16	0.11	0.12	0.11	0.12	0.11	0.12	0.18	0.11	0.16	0.15	0.06	0.12
		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.69	1.32	1.88	1.78	1.68	1.82	1.97	1.97	1.90	1.97	1.83	1.46	1.20
		感染性胃腸炎	5.95	8.19	8.96	7.31	6.67	6.09	6.28	6.37	6.07	6.48	6.95	6.47	6.04
		水痘	2.26	2.56	1.52	1.81	1.46	1.28	1.61	1.54	1.76	1.41	1.49	1.54	1.43
		手足口病	0.15	0.14	0.21	0.13	0.09	0.08	0.11	0.11	0.05	0.02	0.09	0.06	0.05
		伝染性紅斑	0.17	0.22	0.32	0.24	0.19	0.11	0.11	0.13	0.14	0.14	0.15	0.13	0.05
		突発性発しん	0.36	0.49	0.44	0.39	0.33	0.35	0.44	0.45	0.35	0.39	0.31	0.45	0.42
		百日咳	0.03	0.03	0.02	0.01	0.02	0.02	0.03	0.02	0.03	0.02	0.03	0.04	0.01
		ヘルパンギーナ	0.02	0.04	0.03	0.03	0.03	0.03	0.05	0.04	0.02	0.02	0.02	0.02	0.03
	流行性耳下腺炎	0.38	0.34	0.18	0.17	0.21	0.22	0.21	0.21	0.19	0.21	0.14	0.20	0.27	
*3		急性出血性結膜炎	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.09	0.02	0.00	0.06	0.04
		流行性角結膜炎	0.23	0.13	0.15	0.21	0.23	0.23	0.26	0.21	0.17	0.11	0.25	0.08	0.08
*4		細菌性髄膜炎	0.07	0.07	0.13	0.07	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.07	0.07	0.00
		無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.07	0.07	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		マイコプラズマ肺炎	2.87	1.07	1.07	1.33	1.53	1.40	1.07	1.33	0.93	0.73	1.80	0.60	1.47
		クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

		月	7月				8月					9月			
		週	27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週
定点数	*1	インフルエンザ	300	300	300	300	300	300	300	303	303	304	306	306	306
	*2	小児科	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	199	199	199
	*3	眼科	48	48	48	48	48	48	48	50	51	52	52	52	52
	*4	基幹	16	16	16	16	17	17	17	17	17	17	17	17	17
疾病名	*1	インフルエンザ	0.02	0.01	0.01	0.02	0.01	0.02	0.03	0.01	0.01	0.02	0.03	0.01	0.01
*2		RSウイルス感染症	0.09	0.09	0.04	0.25	0.28	0.32	0.42	0.32	0.53	0.88	1.21	1.35	1.81
		咽頭結膜熱	0.68	0.57	0.41	0.49	0.46	0.48	0.27	0.37	0.30	0.39	0.40	0.31	0.28
		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.21	2.09	1.51	1.49	1.12	1.22	0.69	0.82	1.05	1.04	1.42	1.03	1.36
		感染性胃腸炎	5.26	4.45	3.65	3.50	3.60	3.50	2.24	3.38	3.24	3.35	3.47	3.04	3.28
		水痘	1.37	1.21	1.15	0.92	0.75	0.72	0.53	0.61	0.38	0.56	0.55	0.52	0.49
		手足口病	0.48	0.43	0.60	0.63	0.53	0.36	0.20	0.26	0.31	0.28	0.21	0.18	0.24
		伝染性紅斑	0.10	0.10	0.09	0.16	0.14	0.05	0.03	0.03	0.02	0.03	0.04	0.03	0.05
		突発性発しん	0.68	0.71	0.63	0.74	0.57	0.58	0.47	0.68	0.71	0.69	0.66	0.46	0.69
		百日咳	0.04	0.03	0.06	0.03	0.03	0.06	0.03	0.02	0.03	0.02	0.04	0.04	0.03
		ヘルパンギーナ	2.40	4.05	4.04	4.03	3.24	2.36	1.02	1.06	0.88	0.70	0.77	0.34	0.34
	流行性耳下腺炎	0.33	0.36	0.34	0.39	0.34	0.29	0.22	0.23	0.31	0.44	0.20	0.28	0.22	
*3		急性出血性結膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.02	0.02	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00	0.02
		流行性角結膜炎	0.13	0.25	0.10	0.23	0.15	0.29	0.21	0.26	0.37	0.38	0.21	0.33	0.31
*4		細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.12	0.06	0.00	0.00	0.00
		無菌性髄膜炎	0.00	0.19	0.00	0.13	0.06	0.06	0.06	0.18	0.06	0.12	0.12	0.00	0.12
		マイコプラズマ肺炎	1.06	0.81	0.88	1.25	1.18	0.71	0.71	1.24	1.47	0.71	1.06	1.00	1.18
		クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.06	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00

I 定点把握感染症(性感染症を除く)

4月				5月					6月			
14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
295	295	298	298	298	298	299	301	301	301	301	301	301
194	194	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197
48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48
15	15	15	15	15	16	16	16	16	16	16	16	16
5.56	4.39	3.60	2.26	0.60	0.37	0.15	0.13	0.08	0.04	0.02	0.03	0.02
0.65	0.57	0.50	0.31	0.22	0.20	0.19	0.20	0.09	0.12	0.05	0.10	0.13
0.12	0.13	0.15	0.25	0.16	0.39	0.43	0.54	0.51	0.53	0.61	0.58	0.55
1.37	1.43	1.60	2.02	0.83	2.10	2.18	2.37	3.02	2.61	2.90	2.50	2.31
6.78	9.41	10.42	10.53	5.63	8.79	10.04	10.68	10.45	9.44	7.66	6.59	5.79
1.41	1.29	1.36	1.54	1.09	2.07	1.35	1.72	1.66	1.77	1.81	1.66	1.42
0.06	0.03	0.09	0.10	0.09	0.14	0.12	0.13	0.16	0.21	0.22	0.43	0.37
0.07	0.12	0.12	0.13	0.09	0.05	0.09	0.05	0.09	0.10	0.10	0.13	0.13
0.51	0.56	0.64	0.61	0.31	0.59	0.46	0.55	0.70	0.59	0.64	0.62	0.65
0.04	0.02	0.02	0.01	0.01	0.03	0.03	0.03	0.07	0.06	0.04	0.03	0.02
0.04	0.03	0.04	0.04	0.05	0.03	0.18	0.18	0.19	0.25	0.42	0.87	1.69
0.19	0.28	0.26	0.22	0.20	0.30	0.21	0.22	0.22	0.29	0.25	0.36	0.34
0.00	0.02	0.04	0.00	0.00	0.00	0.00	0.04	0.06	0.00	0.04	0.02	0.00
0.15	0.21	0.23	0.31	0.21	0.27	0.23	0.19	0.25	0.29	0.21	0.27	0.15
0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00
0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.06	0.06
1.20	1.07	1.33	1.00	1.00	1.44	0.56	1.31	1.19	0.88	0.50	0.75	0.88
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00

10月				11月					12月				平均
40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
307	307	307	307	308	308	307	307	306	306	306	306	305	15676
200	200	200	200	200	200	199	199	198	198	198	198	197	10238
52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	2560
17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	836
0.02	0.03	0.01	0.02	0.04	0.06	0.05	0.13	0.15	0.30	0.62	0.76	0.79	5.86
1.87	1.39	1.21	1.27	1.11	1.21	1.17	1.19	1.58	1.74	1.92	2.11	1.85	0.81
0.22	0.18	0.17	0.17	0.12	0.19	0.25	0.28	0.28	0.36	0.45	0.47	0.49	0.30
1.30	1.20	1.22	1.80	1.50	2.03	1.95	1.80	1.72	2.34	2.11	2.14	1.53	1.70
4.02	3.93	5.36	7.19	9.64	15.43	19.28	16.93	15.24	14.58	13.51	11.98	8.28	7.53
0.65	0.45	0.58	0.62	0.92	0.88	1.17	1.11	1.40	1.33	1.73	1.63	1.56	1.26
0.25	0.20	0.17	0.19	0.17	0.12	0.13	0.12	0.16	0.17	0.16	0.13	0.17	0.20
0.04	0.06	0.02	0.04	0.04	0.05	0.06	0.02	0.05	0.03	0.04	0.04	0.04	0.09
0.67	0.49	0.58	0.63	0.48	0.52	0.50	0.48	0.56	0.49	0.46	0.46	0.33	0.53
0.03	0.01	0.02	0.06	0.04	0.01	0.03	0.02	0.03	0.04	0.01	0.02	0.01	0.03
0.20	0.17	0.10	0.05	0.05	0.04	0.02	0.05	0.03	0.04	0.03	0.04	0.02	0.59
0.27	0.27	0.33	0.20	0.21	0.21	0.16	0.17	0.23	0.16	0.17	0.16	0.14	0.25
0.02	0.02	0.00	0.04	0.02	0.02	0.02	0.00	0.02	0.02	0.00	0.00	0.00	0.01
0.29	0.29	0.27	0.23	0.37	0.17	0.15	0.15	0.29	0.44	0.19	0.33	0.37	0.23
0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.12	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02
0.29	0.00	0.06	0.00	0.06	0.00	0.12	0.06	0.06	0.00	0.00	0.00	0.12	0.05
1.18	0.94	1.71	1.24	1.35	1.47	0.88	0.59	0.53	0.65	0.59	0.71	0.94	1.08
0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.06	0.12	0.06	0.00	0.00	0.00	0.06	0.06	0.02

平成24年 感染症別・ブロック別報告状況(大阪府内集計)

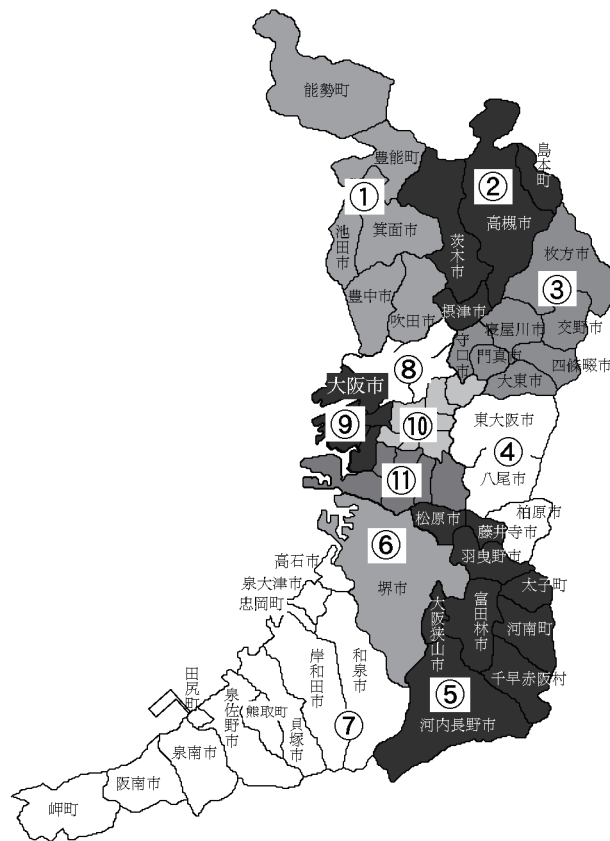
(ブロック別)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
ブロック名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	合計	
	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市 北部	大阪市 西部	大阪市 東部	大阪市 南部		
定 点 数	*1 インフルエンザ	1,879	1,352	2,322	1,595	1,248	1,456	1,753	977	765	1,010	1,319	15,676
	*2 小児科	1,191	832	1,456	1,040	832	988	1,092	685	505	731	886	10,238
	*3 眼科	260	208	310	253	208	260	312	225	71	312	141	2,560
	*4 基幹	104	104	104	104	52	104	104	52	34	52	22	836
疾病名													
*1	インフルエンザ	7,902	7,125	15,577	8,642	11,389	8,920	11,209	5,404	5,101	4,984	5,598	91,851
*2	RSウイルス感染症	652	556	1,429	756	1,200	531	696	821	562	530	577	8,310
	咽頭結膜熱	176	76	402	386	239	358	576	170	105	260	335	3,083
	A群溶血性リソ球菌咽頭炎	2,787	843	2,579	1,990	1,354	2,395	1,816	785	565	1,077	1,208	17,399
	感染性胃腸炎	6,642	5,158	13,267	11,375	10,016	4,952	10,553	3,482	3,662	3,572	4,443	77,122
	水痘	981	1,002	2,367	1,495	1,680	942	1,294	963	647	645	867	12,883
	手足口病	267	105	510	227	194	73	73	173	86	100	219	2,027
	伝染性紅斑	60	34	145	151	184	98	41	55	25	58	76	927
	突発性発しん	560	326	1,022	784	678	388	511	319	172	263	395	5,418
	百日咳	65	7	54	28	19	23	19	11	6	25	18	275
	ヘルパンギーナ	454	260	1,253	924	686	329	700	381	265	254	485	5,991
流行性耳下腺炎	385	132	621	343	218	122	170	163	86	120	176	2,536	
*3	急性出血性結膜炎	0	1	3	4	1	10	12	3	1	2	0	37
	流行性角結膜炎	43	91	49	38	42	67	39	63	26	76	64	598
	合計(RSウイルス感染症 -流行性角結膜炎)	13,072	8,591	23,701	18,501	16,511	10,288	16,500	7,389	6,208	6,982	8,863	136,606
*4	細菌性髄膜炎	1	6	0	2	0	6	1	0	1	0	1	18
	無菌性髄膜炎	11	6	8	0	1	11	0	0	1	2	0	40
	マイコプラズマ肺炎	18	205	81	177	25	133	164	0	3	38	56	900
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	1	1	1	2	0	5	0	0	0	3	0	13
	合計(細菌性髄膜炎- クラミジア肺炎:オウム病を除く)	31	218	90	181	26	155	165	0	5	43	57	971
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	213	84	25	53	342	70	64	31	12	10	36	940
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	98	16	0	4	37	23	0	0	15	0	12	205
	薬剤耐性緑膿菌感染症	1	2	0	0	8	0	0	0	0	0	1	12
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 -薬剤耐性アシネトバクター感染症)	312	102	25	57	387	93	64	31	27	10	49	1,157

平成 24 年 感染症別・年齢別報告状況（大阪府内集計）

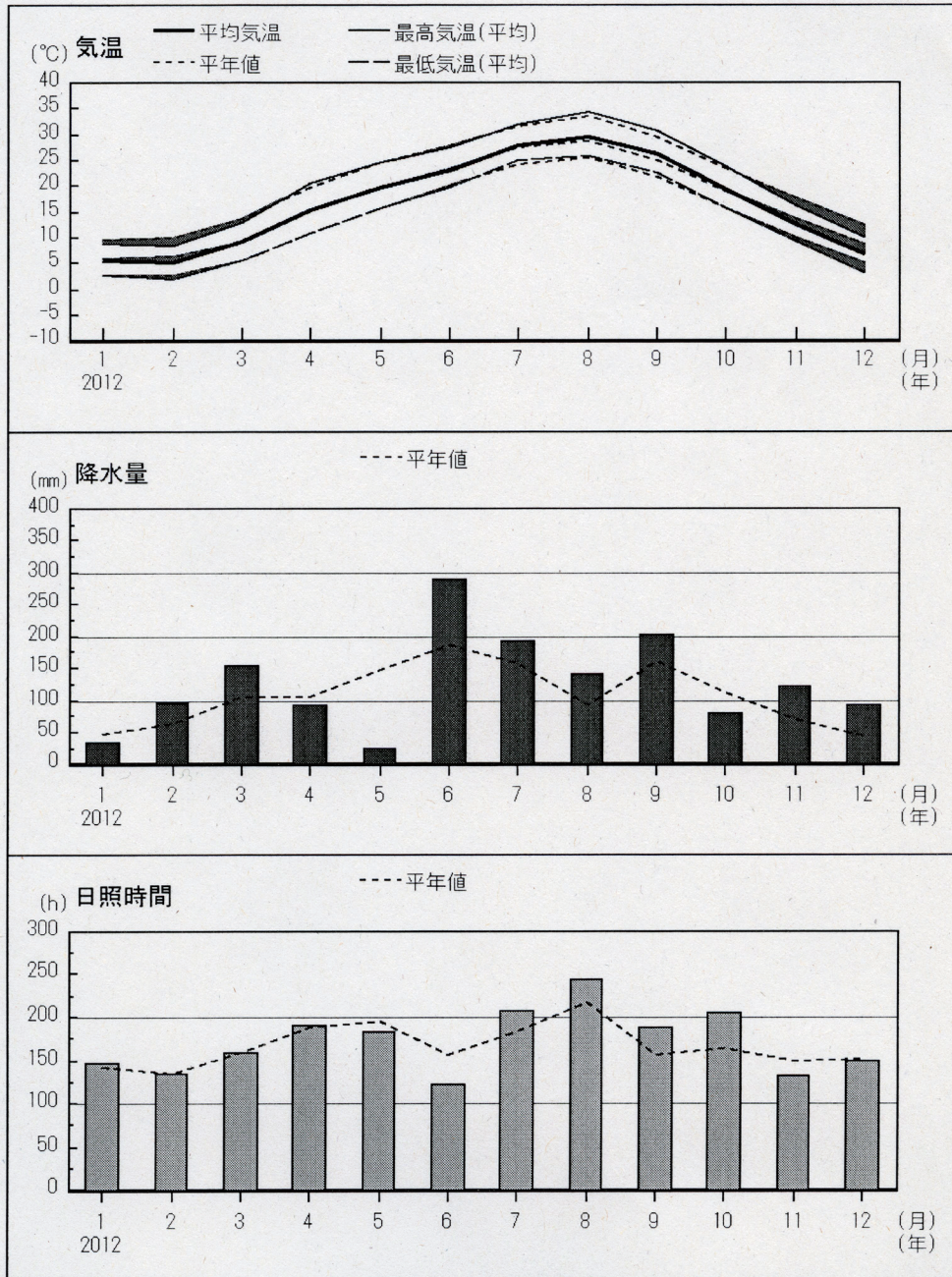
(年齢別)																					
年齢	区分	6	12										10	15	20	30	40	50	60		
		ケ	ケ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	
		月	月	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	
		未	未										ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	
		満	満										14	19	29	39	49	59			合計
													歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳		
疾病名																					
インフルエンザ		328	1,116	3,786	4,649	5,992	7,634	8,687	8,433	7,301	6,293	5,484	16,449	2,368							91,851
RSウイルス感染症		1,590	1,996	2,699	1,091	531	213	76	29	14	15	12	21	2			21				8,310
咽頭結膜熱		22	250	728	410	456	415	326	152	94	64	53	62	6			45				3,083
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		142	261	910	1,219	1,862	2,509	2,436	1,884	1,440	1,075	851	1,638	210			962				17,399
感染性胃腸炎		842	5,587	12,568	8,764	7,828	7,414	6,005	4,427	3,193	2,761	2,223	6,002	1,435			8,073				77,122
水痘		203	670	2,145	2,376	2,245	1,891	1,371	774	432	273	152	240	23			88				12,883
手足口病		20	123	515	399	316	229	147	92	49	42	27	43	6			19				2,027
伝染性紅斑		0	33	68	90	117	144	155	88	67	65	36	52	3			9				927
突発性発しん		116	2,336	2,534	349	68	8	3	3	1	0	0	0	0			0				5,418
百日咳		41	19	30	14	6	10	9	1	3	6	1	31	7			97				275
ヘルパンギーナ		61	474	1,537	1,221	885	695	453	230	112	67	53	94	19			90				5,991
流行性耳下腺炎		1	10	89	194	333	431	401	325	232	169	116	187	14			34				2,536
急性出血性結膜炎		0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	1	0			33				37
流行性角結膜炎		3	5	17	22	17	12	13	7	8	6	8	13	17			450				598
合計(RSウイルス感染症 －流行性角結膜炎)		3,041	11,764	23,840	16,149	14,666	13,971	11,395	8,012	5,646	4,543	3,532	8,384	1,742			9,921				136,606
細菌性髄膜炎		4	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	10		18
無菌性髄膜炎		1	1	1	0	0	0	4	1	2	1	2	3	1	4	8	6	2	3		40
マイコプラズマ肺炎		1	6	47	73	84	84	71	71	68	68	61	168	23	26	29	8	5	7		900
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0	0	1	0	0	2	1	1	0	1	2	1	1	0	1	0	2		13
合計(細菌性髄膜炎－ クラミジア肺炎・オウム病を除く)		6	7	48	74	84	84	79	73	71	69	64	173	25	32	37	15	8	22		971
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		24	8	11	7	8	8	7	9	1	1	3	8	5	20	26	32	32	730		940
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		9	11	48	20	9	9	7	5	3	0	1	1	1	1	4	3	2	71		205
薬剤耐性緑膿菌感染症		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	8		12
薬剤耐性アシネトバクター感染症		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0
合計(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 －薬剤耐性アシネトバクター感染症)		33	19	59	27	17	17	14	14	4	1	4	9	6	22	31	37	34	809		1,157

ブロック別人口動態・ブロック地図

ブロック	市町村区分	定点数	人口	出生数
①豊能	豊中市、池田市、吹田市、箕面市、能勢町 豊能町	内科 14 小児科 22 眼科 5 STD 8 基幹 2 疑似 54	1,015,562	8,649
②三島	高槻市、茨木市、摂津市、島本町	内科 10 小児科 17 眼科 4 STD 5 基幹 2 疑似 36	746,612	6,860
③北河内	守口市、寝屋川市、門真市、枚方市、大東市 四條畷市、交野市	内科 17 小児科 28 眼科 6 STD 9 基幹 2 疑似 65	1,183,432	9,354
④中河内	八尾市、柏原市、東大阪市	内科 11 小児科 20 眼科 5 STD 7 基幹 2 疑似 47	854,231	6,525
⑤南河内	藤井寺市、松原市、羽曳野市、富田林市、大阪狭山市、河内長野市、河南町、太子町 千早赤阪村	内科 8 小児科 16 眼科 4 STD 5 基幹 2 疑似 37	631,914	4,295
⑥堺市	堺市	内科 9 小児科 19 眼科 5 STD 6 基幹 2 疑似 49	842,685	7,350
⑦泉州	和泉市、高石市、泉大津市、忠岡町、岸和田市、貝塚市、泉佐野市、泉南市 阪南市、田尻町、熊取町、岬町	内科 13 小児科 21 眼科 6 STD 6 基幹 2 疑似 48	920,433	7,894
⑧大阪市北部	北区、都島区、淀川区、東淀川区、旭区	内科 6 小児科 13 眼科 4 STD 9 基幹 1 疑似 37	656,609	5,903
⑨大阪市西部	福島区、此花区、西区、港区、大正区、西淀川区	内科 5 小児科 10 眼科 2 STD 3 基幹 1 疑似 25	470,301	4,324
⑩大阪市東部	中央区、天王寺区、浪速区、東成区、生野区 城東区、鶴見区	内科 7 小児科 15 眼科 6 STD 4 基幹 1 疑似 39	704,691	6,308
⑪大阪市南部	阿倍野区、住吉区、住之江区、東住吉区 平野区、西成区	内科 9 小児科 17 眼科 4 STD 3 基幹 1 疑似 46	838,978	6,457
合計		内科 109 小児科 198 眼科 51 STD 65 基幹 18 疑似 483	8,865,448	73,919
人口、出生数は大阪府人口動態総覧(平成24年)等より収録 定点数は平成24年12月末現在の数を掲載				



〈参 考〉 大阪の気象



大阪管区気象台平成 24 年 (2012) 年報「大阪府の気象」より引用

## 2. 各感染症状況報告

### 1) インフルエンザ定点把握疾患

#### ●インフルエンザ

平成24年の全インフルエンザ患者報告数は91,851例で、年平均定点報告数は5.86で過去5年間(例外的であったH21,22年を除く)の平均3.4と比較し75%も増加し大きな流行となった。平成23/24年シーズンは平成23年12月の50週に1.70となり流行期が開始した。流行のピークは2月の第5週で、定点あたりの報告数が45.2と最近10年間で最も多い報告数となった。第9週以後もB型が原因と推定される流行が加わり、3月第13週で10を下回り、4月は5-2代で、5月の第18週で1を下回り終息した。平成24年1-5月の流行の最も特徴的な点は、流行のピークが最近10年間で最高であり、また流行が比較的長期間続いたため、例年に比べ75%増の大きな流行となった点である。

年齢別年間患者発生数では5歳が最も多かったが、集団生活年齢の4-9歳が発症群の約半数を占めた。ブロック別にみた一定点あたりの年間平均報告数では、南河内が9.1と突出して大きな流行であった。以下、北河内、大阪市西部、泉州、堺市が6代で、大阪市北部、中河内、三島が5代、大阪市東部、南部、豊能が4代であった。(大阪府は大阪府に比べ人口あたりの定点数が多く単純には比較が困難であることは考慮すべき点である。)大阪市西部は休日診療所が定点となっている影響が強いと考えられる。

インフルエンザの流行期と分離ウイルスの型/亜型との関連についてみると、1月に分離されたウイルスはA(H3N2)が95%(85/95)と大部分を占め、B型が4%で、A(H1N1)pdm09は1株分離されたのみであった。2月に分離されたウイルスはA(H3N2)が58%(18/31)で、B型が42%とB型が遅れて流行した。3月に分離されたウイルスはB型が70%(14/20)、A(H3N2)が30%で、B型が7割を占めた。このように型/亜型がシフトして流行するパターン、特にB型が流行の後期を占める現象は例年よく見られるものであった。一方、平成24/25年シーズンについては11,12月に分離されたウイルスはB型1株を除きすべてA(H3N2)であった。

平成22/23年シーズンに分離されたA(H3N2)亜型から無作為に19株抽出し、4種の抗インフルエンザ薬に対する感受性試験を行った。その結果全ての株が4種の薬剤に対して感受性を示した。A(H1N1)pdm09ウイルスは分離されず、試験に供することはできなかった。

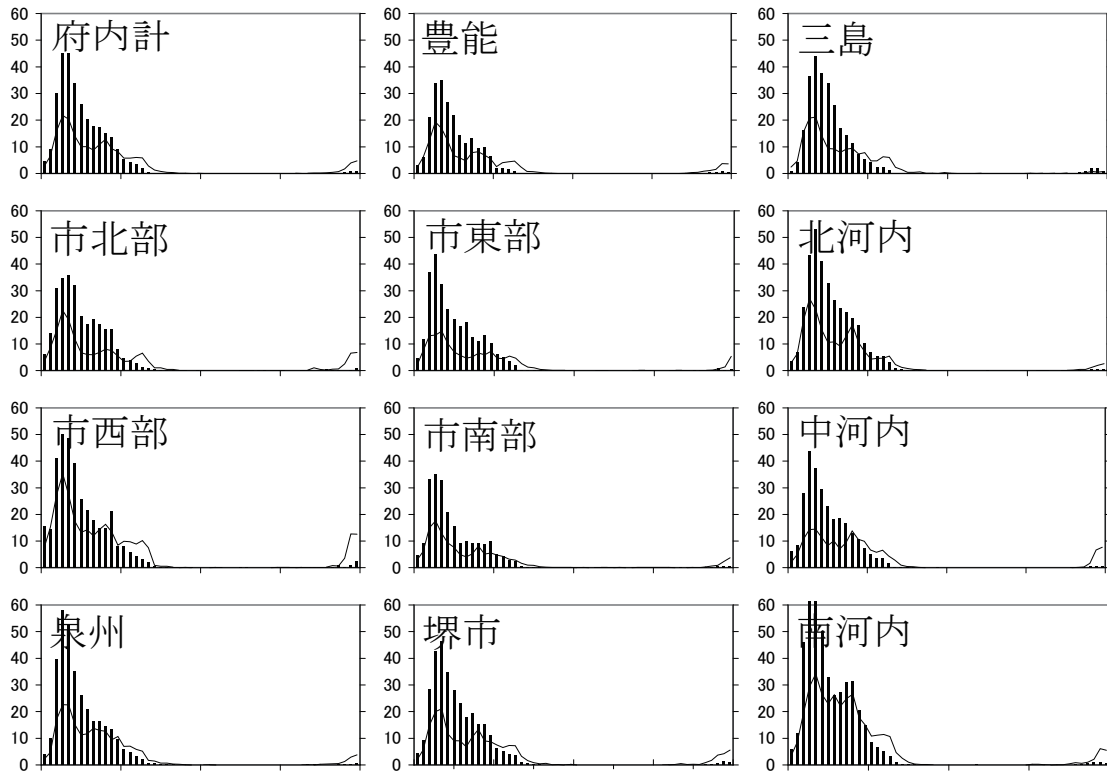
分離ウイルス株の抗原性変異についてみると、H23/24年シーズンでは、A(H3N2)は93%(136/147)の株がHI抗体価で4倍以上の減少を示す変異株で、すでにワクチン株とは異なる抗原性のウイルスが大勢を占めていた。B型では78%(18/23)が変異株であり、B型の抗原性もワクチン株と大きく異なっていた。このシーズンは全国的にもワクチンがほとんど有効でないという印象であったが、それを裏付ける結果となった。

(文責：高橋)

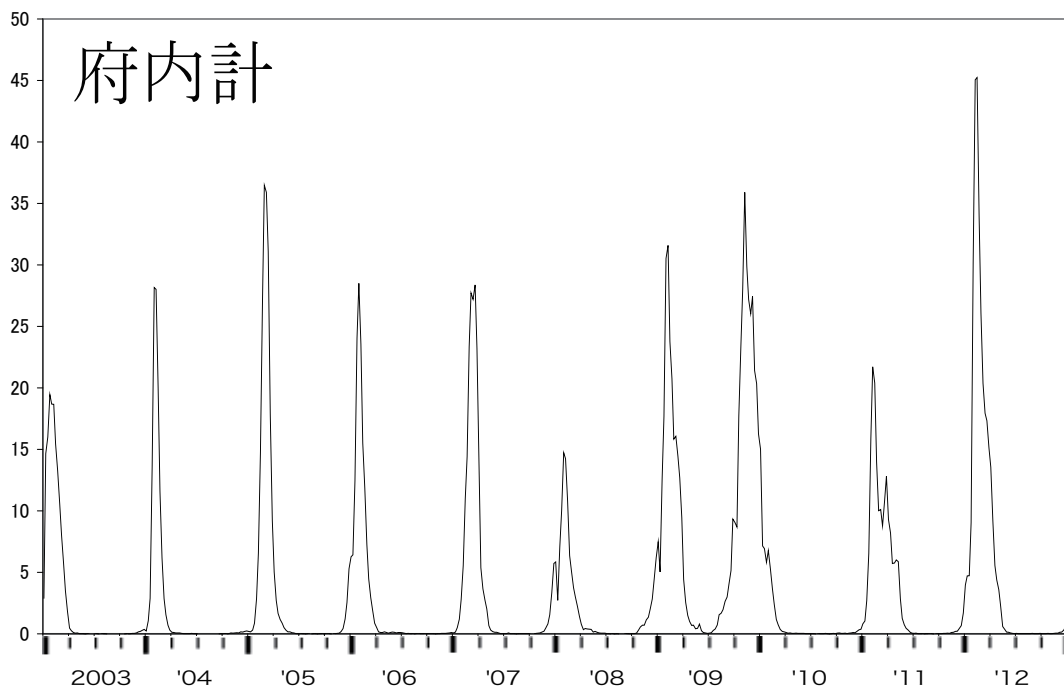
# インフルエンザ

線 (H23年第1週～第52週)

棒 (H24年第1週～第52週)



線 (H15年第1週～H24年第52週)





## 2) 小児科定点把握疾患

### ●RSウイルス感染症

平成24年のRSウイルス感染症の報告数は8,310例で、前年より2,069例、33.2%増加した。小児科・眼科定点報告対象13疾患総報告数の6.1%を占めている。定点あたり報告数の年平均は0.81で、対象疾患中4位であった。全国集計の報告数は98,010例で、前年より27,135例、38.3%増加した。総報告数の4.4%を占め、定点あたり年平均0.60の報告があり、対象疾患中第5位であった。

大阪府における週別の定点あたりの報告数は、第1週の1.01から始まり、春に向かうに従い漸減し、第29週に年間最低値の0.04となる。その後は増加に転じ、37週に1を超え、51週に年間最高値の2.11となった。

RSウイルス感染症の報告数は、例年冬期にピークが見られ、夏期は少ない状態が続いていたが、平成23年、24年と2年連続して夏期から増加傾向がみられている。23年では1を超えたのが31週と、より早期であった。この傾向は、全国でも同様であった。

また24年の報告数は、これまでで最も立ち上がりがあった23年の報告数をも上回っており、年間の報告数も大阪府、全国とも30%以上の増加となった。

これについては、迅速診断キット検査の保険適応が、23年10月より従来入院症例に加えて、1歳未満児およびパリビズマブ製剤の適応となる患者に対してまで広がったことも関係していると推察される。

年齢別報告例数は、0歳児が3,586例で全体の43.1%、1歳児が2,699例で32.5%と、合わせて2歳未満で75.6%を占めた。さらに3歳児まで含めると、全体の95.2%を占めた。

RSウイルス感染症は、乳幼児に症状が顕著に現れ、初感染であるほどその重篤性が増す極めて重要な感染症である。今後の報告数の推移については、パリビズマブ製剤の投与開始時期の再考も含め、より一層の注意が必要であると考えられる。

ブロック別の年間平均報告数を定点あたりで見ると、⑤南河内1.44、⑧大阪市北部1.20、⑨大阪市西部1.11、③北河内0.98、④中河内と⑩大阪市東部0.73、②三島0.67、⑪大阪市南部0.65、⑦泉州0.64、①豊能0.55、⑥堺市0.54と続いた。

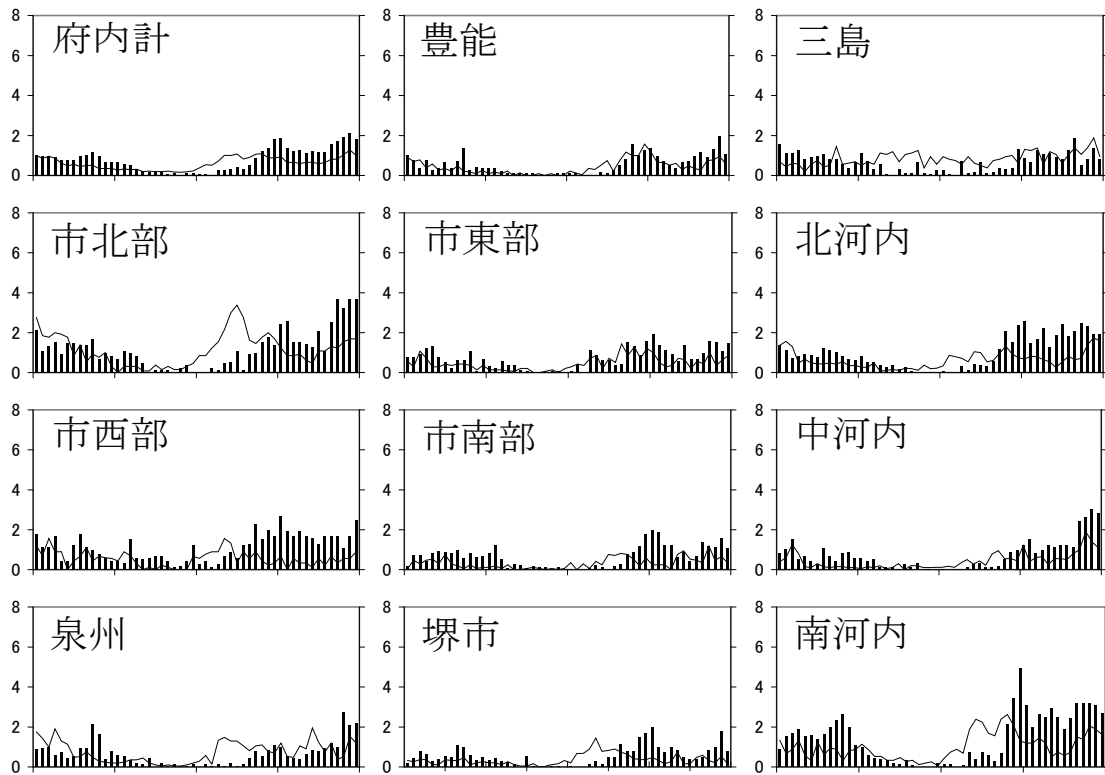
病原体定点医療機関から提出されたすべての検体のうちでRSウイルス検出数は、年間134件あった。検出数の最も多い月は11月の20件で、ついで2月と12月の18であった。年齢別検出数は、0歳～3歳児で113件あり、年間検出数の84.3%を占めた。

(文責：廣川)

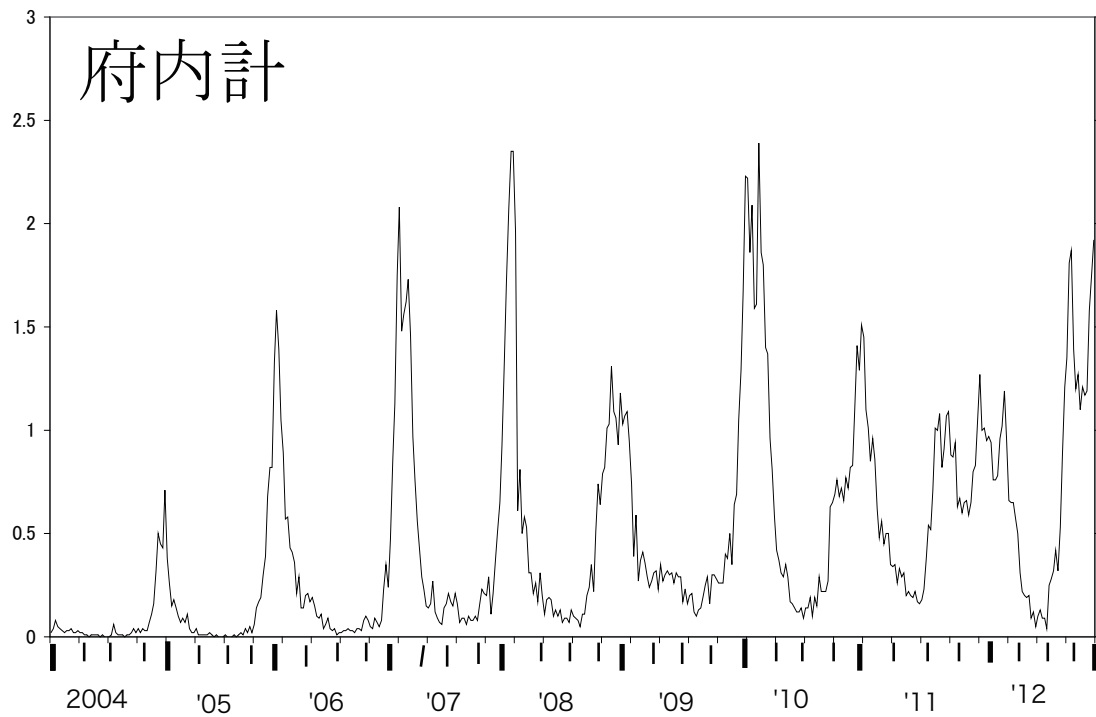
# RS ウイルス感染症

線 (H23年第1週～第52週)

棒 (H24年第1週～第52週)



線 (H16年第1週～H24年第52週)



## ●咽頭結膜熱

平成24年の咽頭結膜熱の報告数は3,083例、平成23年の2,880例に比し、203例7%の増加を示した。定点あたり報告数は平均0.30で、平成23年定点あたり報告数0.20の150%であった。昨年よりは多いが、平年並みの流行であった。

平成24年大阪府13疾患総報告数136,606例の2.1%を占め、多い順では第7位であった。平成24年全国の咽頭結膜熱の報告数は53,440例で、全国13疾患総報告数の第9位であった。

週別の定点あたり報告数では、年平均0.3を超えているのは、第19週(5月)から第38週(9月)までと、第49週から第52週(12月)であった。第24週(8月)と第27週(9月)では0.6を超えてピークを形成した。

月別では6月の447例が最も多く、次いで7月の423例、5月の401例、8月の369例、12月353例と続く。夏型感染症と言えるが、12月は⑪大阪市南部で1.0を超えて小さな流行がみられた。

年齢別では1歳児の728例が最も多く、次いで3歳児の456例、4歳児の415例、2歳児の410例、5歳児の326例、0歳児の272例であった。0歳から5歳までの就学前児童の報告数、2,577例は全報告数の83.6%を占める。乳幼児期の感染症と言える。

ブロック別では、⑦泉州576例が最も多く、次いで③北河内402例、④中河内386例、⑥堺市358例、⑪大阪市南部335例の順に多い。

ブロック別の定点あたり報告数、年平均では⑦泉州0.53が最も高く、次いで⑪大阪市南部0.38、④中河内0.37、⑥堺市・⑩大阪市東部0.36の順に高かった。

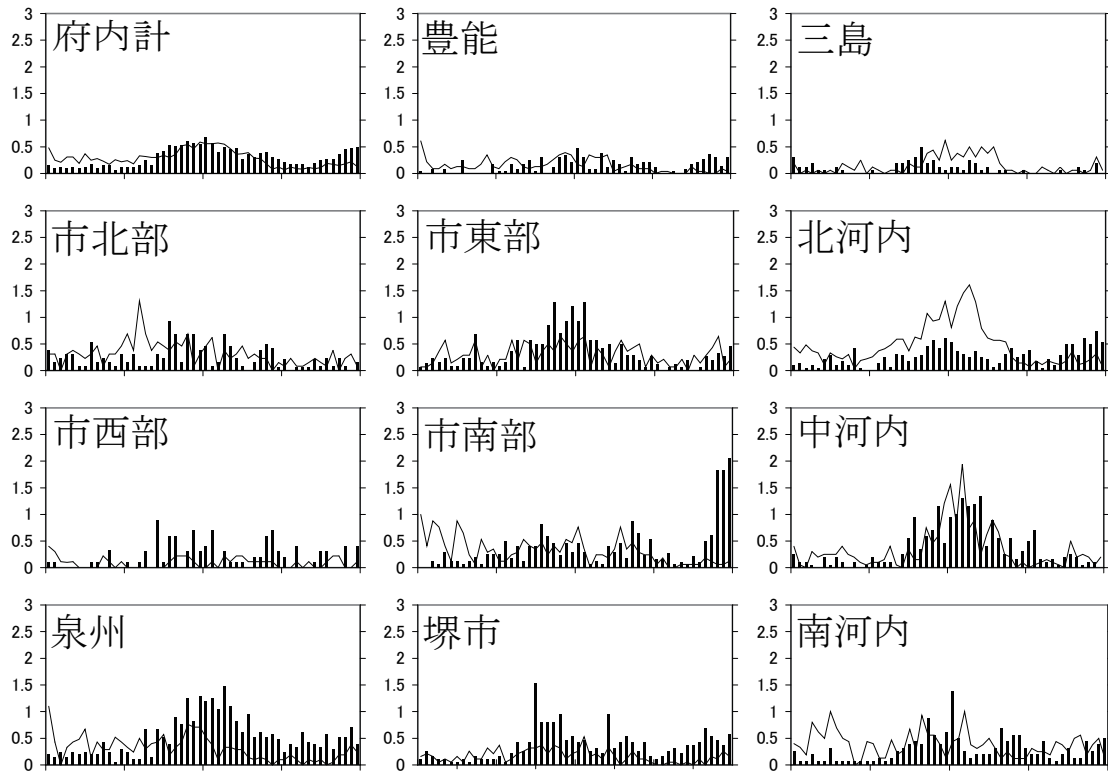
ウイルス検出は27検体中17検体が陽性、陽性率は63.0%であった。検出ウイルスは多い順にライノウイルスが5検体、Ad(アデノウイルス)2とAd4が4検体ずつ、Ad1・Ad3・Ad6・単純ヘルペスウイルスが1検体ずつであった。

(文責 信田)

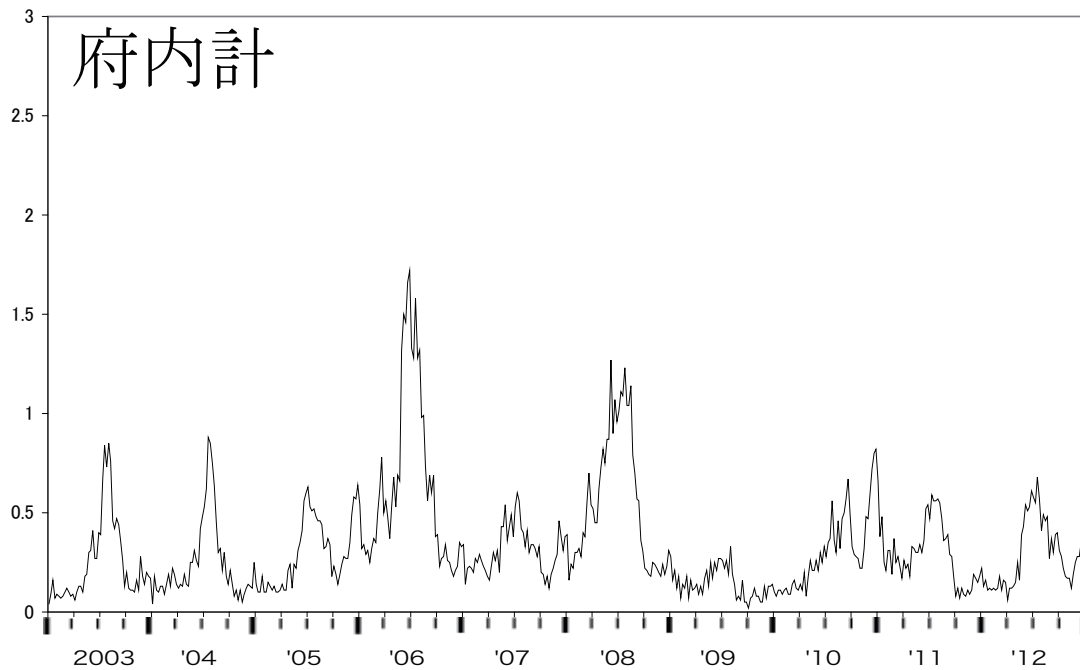
# 咽頭結膜熱

線（H23年第1週～第52週）

棒（H24年第1週～第52週）



線（H15年第1週～H24年第52週）



## ●A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

### 1) 平成24年度の患者報告数と平成23年度の患者報告数との比較

平成24年の報告数は前年比7.7%増の17,399例で、総報告数の12.7%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は1.70で、順位は昨年(1.59)から第2位に上がった。

全国集計の定点あたりの報告数の年平均は1.70で、昨年(1.63)から第2位に上がった。

### 2) 週別(月別)の定点あたりの報告数の推移

定点あたりの報告数は、週別では第19週から第28週(5月～7月)で2.0を超え、ピークは第22週の3.02であった。それ以外では第17週(4月)、第45週(11月)、第49週から51週(12月)でも2.0を超えた。初夏と冬期に二峰性のピークを作る傾向は、例年と同様であった。

全国的には第3週から第5週(1月～2月)、第7週から第11週(2月～3月)第16、17週(4月)、第19週から26週(5月～6月)、第49週から51週(12月)で2.0を超え、第22週の2.84がピーク値であった。

### 3) 年齢別患者発生数

年齢別患者発生数では4歳の2,509例が最も多く、以下5歳(2,436例)、6歳(1,884例)、3歳(1,862例)と続き3歳から6歳で全体の50.0%を占めた。

### 4) ブロック別患者発生数

定点あたりのブロック別年平均報告数の上位5ブロックは⑥堺市(2.42)、①豊能(2.34)、④中河内(1.91)、⑦泉州(1.66)、⑤南河内(1.63)の順であった。

ブロック別・週別定点あたりの報告数の上位5ブロックは⑥堺市(第22週、4.89)、⑥堺市(第7週、4.63)、⑥堺市(第24週、4.53)、⑥堺市(第5週、4.47)、⑤南河内(第22週、4.31)の順であった。

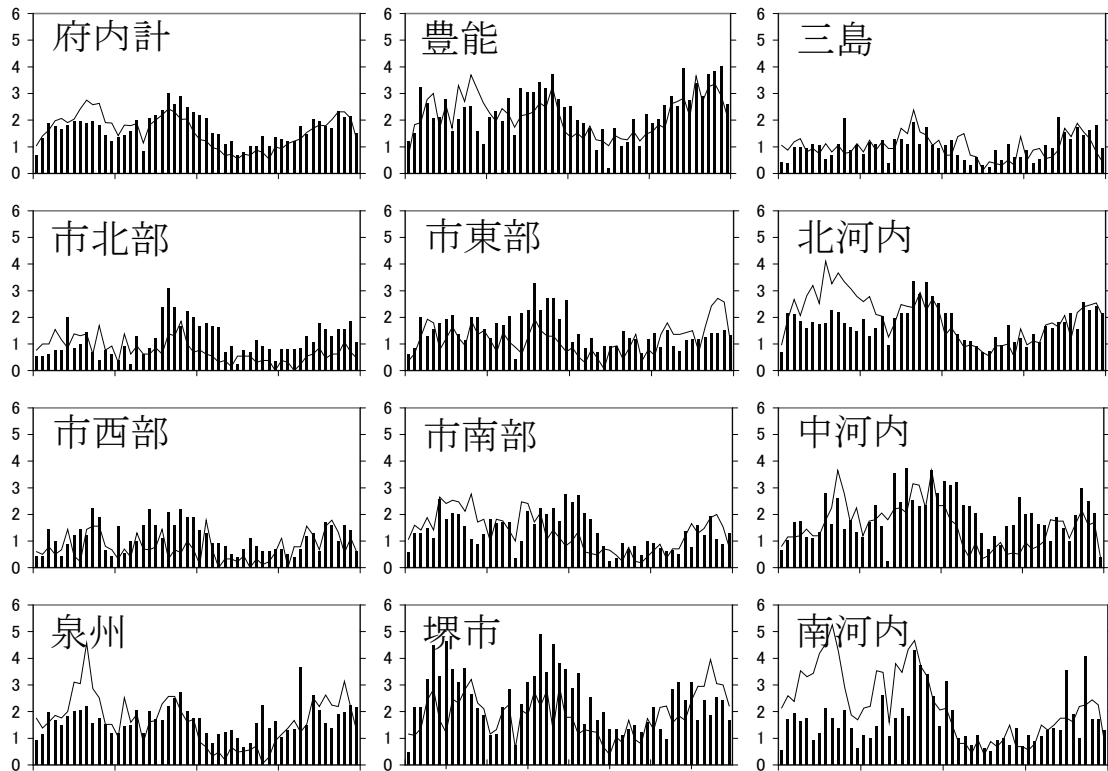
ブロック別年平均報告数、週別報告数ともに⑥堺市での報告数が目立った。

(文責：八木)

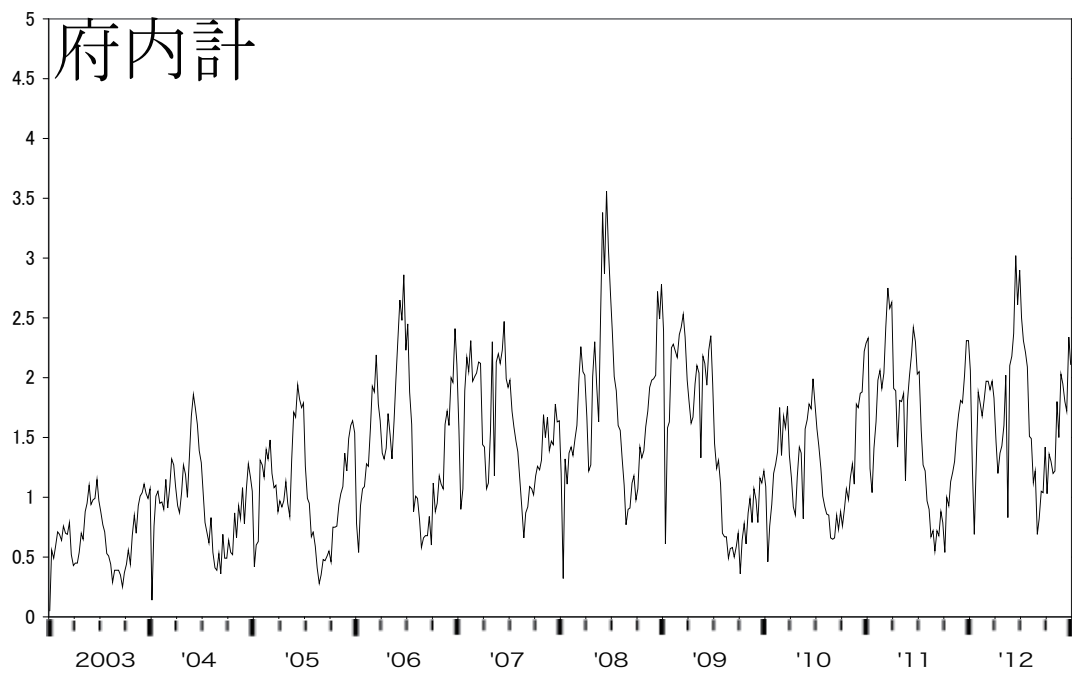
### A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

線 (H23年第1週～第52週)

棒 (H24年第1週～第52週)



線 (H15年第1週～H24年第52週)



●感染性胃腸炎

平成24年の感染性胃腸炎の報告数は77,122例であった。総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の56.5%を占め、定点あたり報告数の年平均は7.53と、前年（5.81）より29.6%増加し、前記対象疾患中第1位である。全国集計でも、1,230,955例の報告数で、総報告数の54.7%を占め、定点あたり報告数の年平均は7.53と前年（7.53）より24.7%増加した。

定点あたり報告数を週別にみると、第3週で8.96のピークを作り、以後は6台で推移していたが、第15週9.41、第16週10.42、第17週10.53と増加した。第18週には5.63と一旦減少したが、再び増加し、第21週にピーク10.68を迎え、以降漸減し第33週に本年最低値である2.24となった。その後3から4で経過していたが、第42週に5を越え、以後増加し、第44週には10に迫り、第46週に最高値である19.28となり、中河内、南河内、北河内、泉州、大阪市西部では警戒域（20.0超え）に入ったが、その後減少に転じた。

報告数については第42週（10月中旬）以降の累計では平成18年32,109に次ぐ過去10年間で2番目の報告数27,309であったが、年間報告数では平成22年77,082、平成18年71,683を超え最も多かった。

全国集計は、第3週で11.23のピークを作り、以降漸減し第12週に6.84となったが、増加に転じ第17週で10.63となった。翌第18週には5.23と減少したが、再び増加し第21週で9.18となった。その後は漸減し、第33週に本年最低値2.26となった。その後2から4の間で経過していたが、第43週に4を越え、以後増加して、第49週に本年の最高値である19.63となったが、以降減少した。

月別報告数では、11月、12月、5月、4月の順に多かった。春から初夏にかけて2度目のピークを作り、夏から秋には低値を取っていたが、一気に10月後半から増加するという例年と比べ発生の立ち上がりが1ヵ月早かった。

年齢別報告数は、1歳、2歳、3歳、4歳、0歳、5歳の順に多く、0～4歳の合計は43,003例となり、全体の55.8%を占めた。5～9歳が18,609例（24.1%）、10～14歳が6,002例（7.8%）、15歳以上が9,508例（12.3%）となり、各年齢群の全体に占める割合は昨年とほぼ同じであった。

定点あたり報告数の年平均をブロック別にみると、⑤南河内12.04、④中河内10.94、⑦泉州9.66、③北河内9.11、⑨大阪市西部7.25、②三島6.20、①豊能5.58、⑧大阪市北部5.08、⑥堺市と⑪大阪市南部5.01、⑩大阪市東部4.89の順であった。

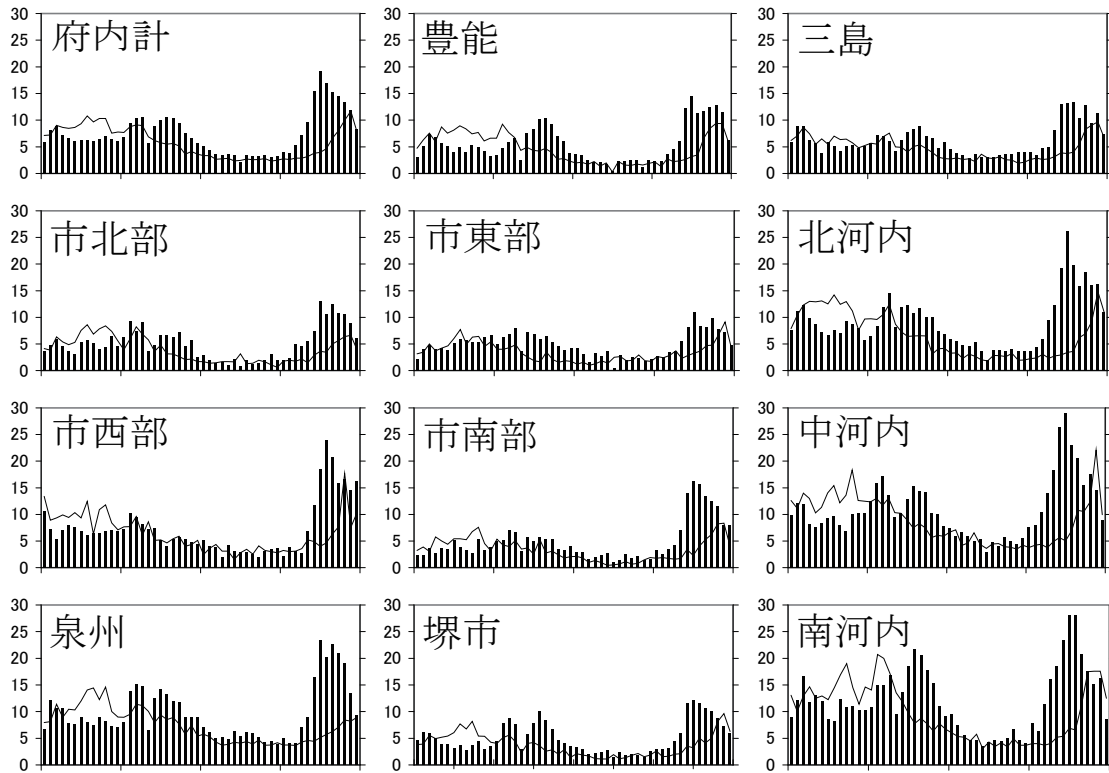
病原体別では、提出された440検体中、279検体でウイルスが分離され、うちノロウイルスG2が172例（61.6%）、ロタウイルスAが48例（17.2%）、サポウイルスが18例（6.5%）で、この3種類のウイルスで全体の85.3%を占めた。

（文責：吉田）

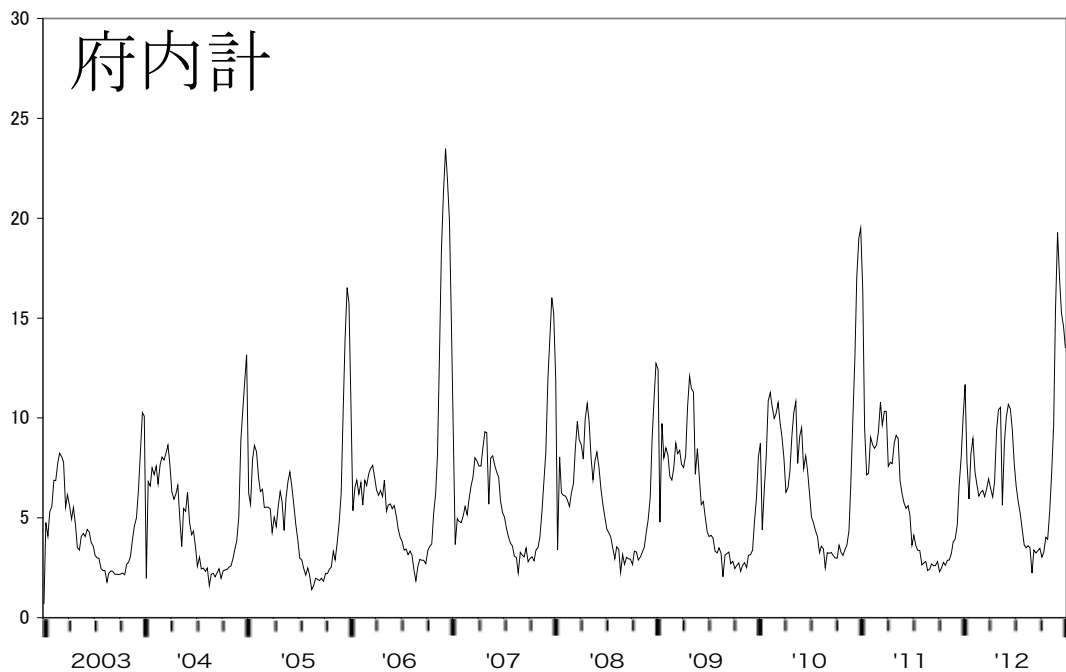
# 感染性胃腸炎

線 (H23年第1週～第52週)

棒 (H24年第1週～第52週)



線 (H15年第1週～H24年第52週)





## ●水痘

平成24年の水痘の報告数は、12,883例であった。本疾患報告数の総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）に占める割合は9.4%で前年（8.9%）から若干増加した。定点あたり報告数の年平均は1.26で、前記対象疾患中第3位である。全国集計の報告数は195,713例で、総報告数の8.7%を占め、定点あたり報告数の年平均は1.20であった。

定点あたり報告数を週別にみると、第1週2.26、第2週に本年の最高値2.56を記録し、以降1台で推移、第19週で2.07と一旦2を超えたが、再び第29週まで1台を推移、第30週以降、第35週で最低値0.38となるなど、1未満は第45週まで続いた。

全国集計でも、第1週に本年最高値の2.53、第2週2.18で始まり、以降1台で推移していたが、第18週で一度1を割ったものの、以降第28週まで1台で推移した。第29週以降1未満を推移していたが、第45週に1を超え、その後増加し、第50週以降、2を越えた。最低値は第35週の0.38であった。

月別報告数では、1月、5月、3月、6月、12月の順に多かった。1月だけで全体の12.4%を占めた。春と冬に二峰性のピークを作り、夏から秋にかけて低値を取る流行曲線は例年とほぼ同様であった。

年齢別報告数は、2歳、3歳、1歳、4歳、5歳、0歳の順に多く、0～4歳の合計は9,530例となり、全体の74.0%を占めた。5～9歳が3,002例（23.3%）、10～14歳が240例（1.9%）、15歳以上が111例（0.9%）となり、各年齢群の全体に占める割合は例年とほぼ同じであった。定点あたり報告数の年平均をブロック別にみると、⑤南河内2.02、③北河内1.63、④中河内1.44、⑧大阪市北部1.41、⑨大阪市西部1.28、②三島1.20、⑦泉州1.18、⑪大阪市南部0.98、⑥堺市0.95、⑩大阪市東部0.88、①豊能0.82の順であった。

ブロック別・週別定点あたり報告状況を見ると、多い順に⑤南河内第2週5.44、同第4週4.19、⑧大阪市北部第1週4.15、⑨大阪市西部第1週3.78、⑤南河内第1週3.75、であった。

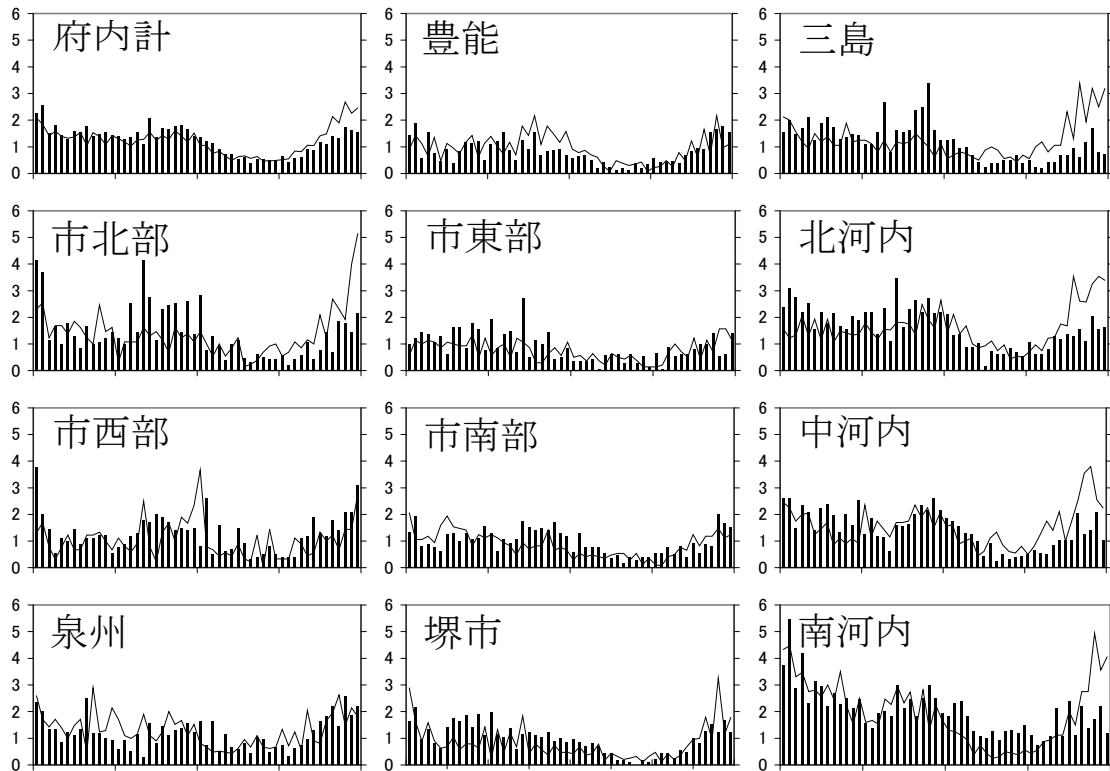
病原体について、本年提出された3検体中、2検体から水痘帯状疱疹ウイルス（varicella zoster virus；VZV）を検出した。

（文責：吉田）

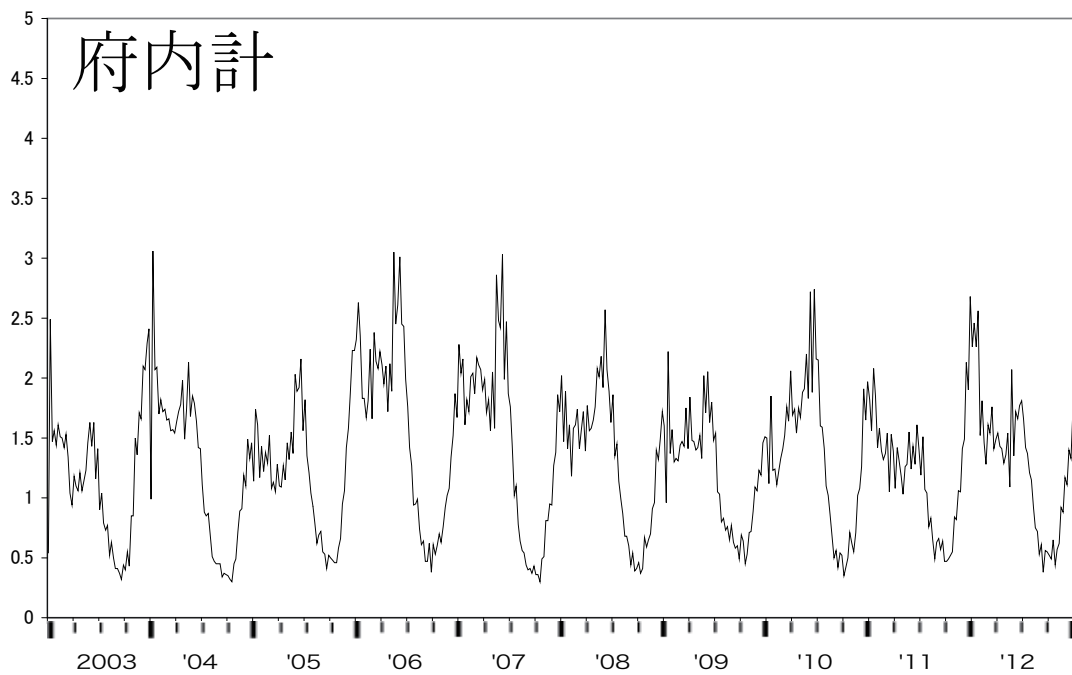
# 水痘

線 (H23年第1週～第52週)

棒 (H24年第1週～第52週)



線 (H15年第1週～H24年第52週)



## ●手足口病

平成24年の手足口病の報告数は2,027例で、平成23年の20,504例に比し、18,477例90.1%の減少を示した。平成24年の定点あたり報告数は平均0.20で、平成23年定点あたり報告数2.02の9.9%であった。昨年の記録的な大流行に比し、平年並より、より小さな流行であった。

平成24年大阪府の13疾患総報告数136,606例の1.5%を占め、多い順では第9位であった。全国の手足口病の報告数72,822例は全国13疾患総報告数では、第7位であった。

週別の定点あたり報告数では 第23週(6月)から0.2を超え、第25週(6月)には0.4を、第29週(7月)には0.6を超えてピークを形成した。第32週(8月)には0.4未満、第38週(9月)には0.2未満と減少した。

月別では 7月338例が最も多く、次いで8月327例、6月241例、9月180例と続く。夏型感染症のパターンを示している。

年齢別では 1歳児515例が最も多く、次いで2歳児399例、3歳児316例、4歳児229例、5歳児147例、0歳児143例であった。0歳から5歳までの就学前児童の報告数1749例が全体の86.2%を占めた。乳幼児期の感染症と言える。

ブロック別では ③北河内510例が最も多く、次いで①豊能267例、④中河内227例、⑩大阪市南部219、⑤南河内194例の順に報告数が多い。

ブロック別の定点あたり報告数、年平均では ③北河内0.35が最も高く、次いで、⑧大阪市北部と⑩大阪市南部が0.25、⑤南河内0.23、①豊能0.22と続く。

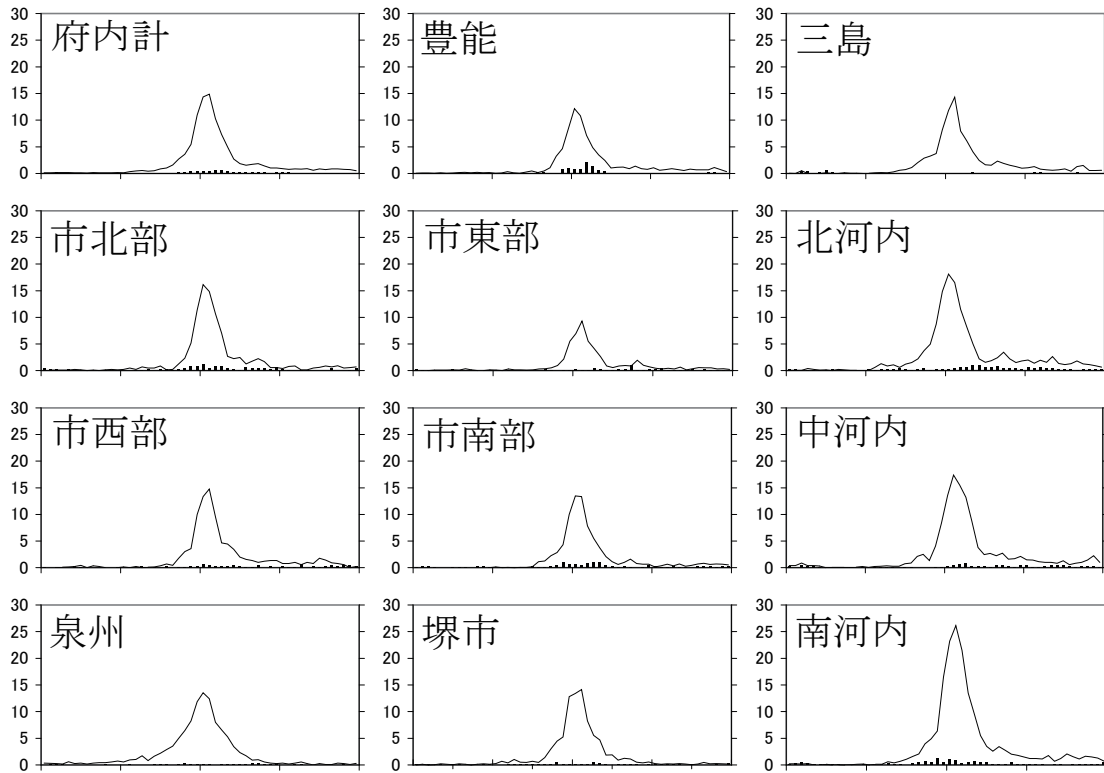
ウイルス検出は21検体中7検体で陽性、陽性率は33.3%であった。検出ウイルスはCA(コクサッキーウイルスA型)16が1検体、E(エコーウイルス)18が1検体、E9が1検体、EV(エンテロウイルス)71が4検体であった。

(文責 信田)

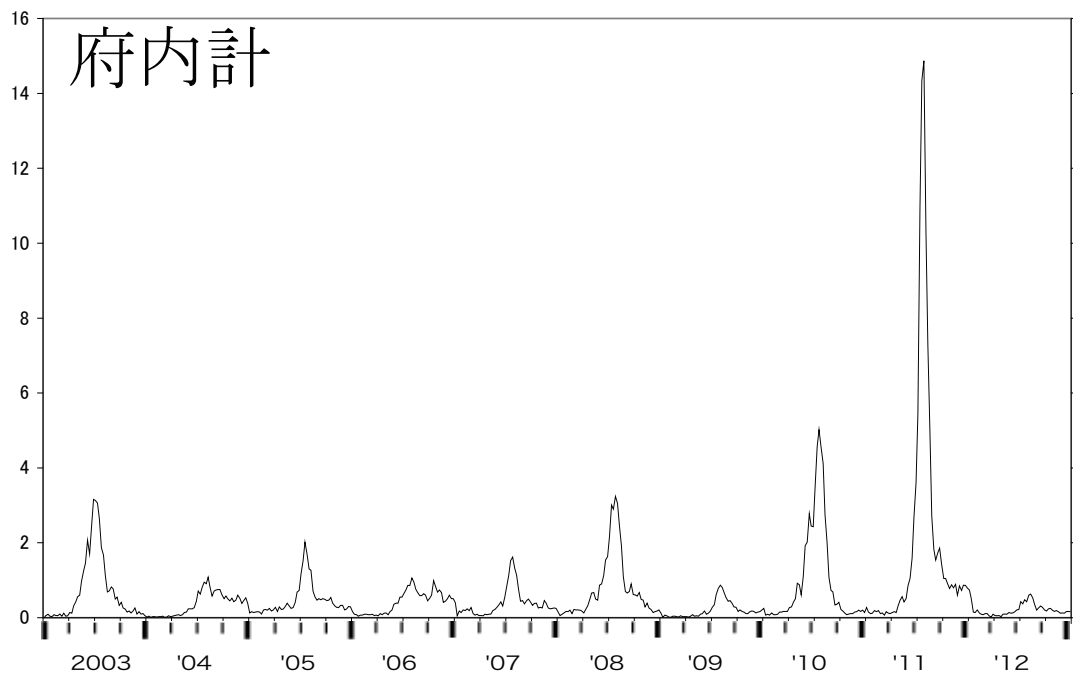
# 手足口病

線（H23年第1週～第52週）

棒（H24年第1週～第52週）



線（H15年第1週～H24年第52週）



## ●伝染性紅斑

平成24年の伝染性紅斑の報告数は927例で、前年の4,295例から3,368例、78.4%の著明な減少を認めた。小児科・眼科定点報告対象13疾患総報告数136,606例の0.7%であった。定点あたりの報告数は年平均0.09で、対象疾患中第11位であった。全国集計でも同様の傾向を示し、報告数は20,966例で、前年の87,010例から75.9%の減少を認めた。対象疾患報告数の0.9%で、定点あたりでは年平均0.13の報告があり、第11位であった。

大阪府における週別の定点あたり報告数において、年間最高値は、第3週の0.32で、最小値は第35、42、47週の0.02であった。年52週のうち29週が0.10未満であり、年間を通じて特に明らかな増加は認められなかった。全国集計でも第2、4週の0.25が年間最高値で、年52週のうち21週が0.01未満と同様の傾向がみられた。

過去10年間の全国集計においても、平成24年の20,966例は、21年の17,281例、20年の19,257に次いで3番目に少ない年であった。なお前年の87,010例は、過去10年間で最も多い報告数であった。次いで19年の78,938例、18年の60,587例がある。

年齢別報告数では、前年と同様に5歳の155例が最も多く16.7%を占め、4歳144例、3歳117例と続いている。3歳から5歳までで、全体の44.9%を占めている。

ブロック別の年間平均報告数を定点あたりで見ると、⑤南河内0.22、④中河内0.15、③北河内と⑥堺市の0.10、⑪大阪市南部0.09、⑧大阪市北部と⑩大阪市東部の0.08、①豊能と⑨大阪市西部の0.05、②三島と⑦泉州の0.04の順であった。

。

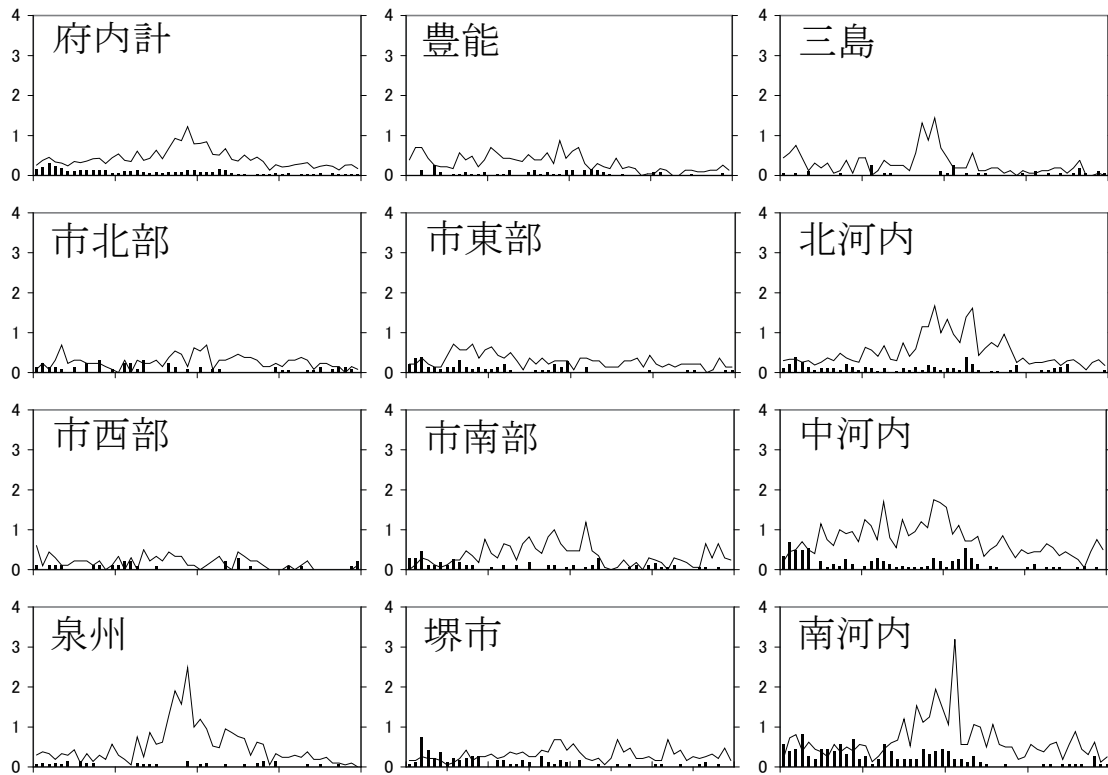
病原体定点医療機関から提出されたすべての検体のうちでヒトパルボウイルスB19の検出数は、年間3件で、3月に2件、10月に1件であり、患者年齢は4歳2例、10-14歳で1例であった。

(文責：廣川)

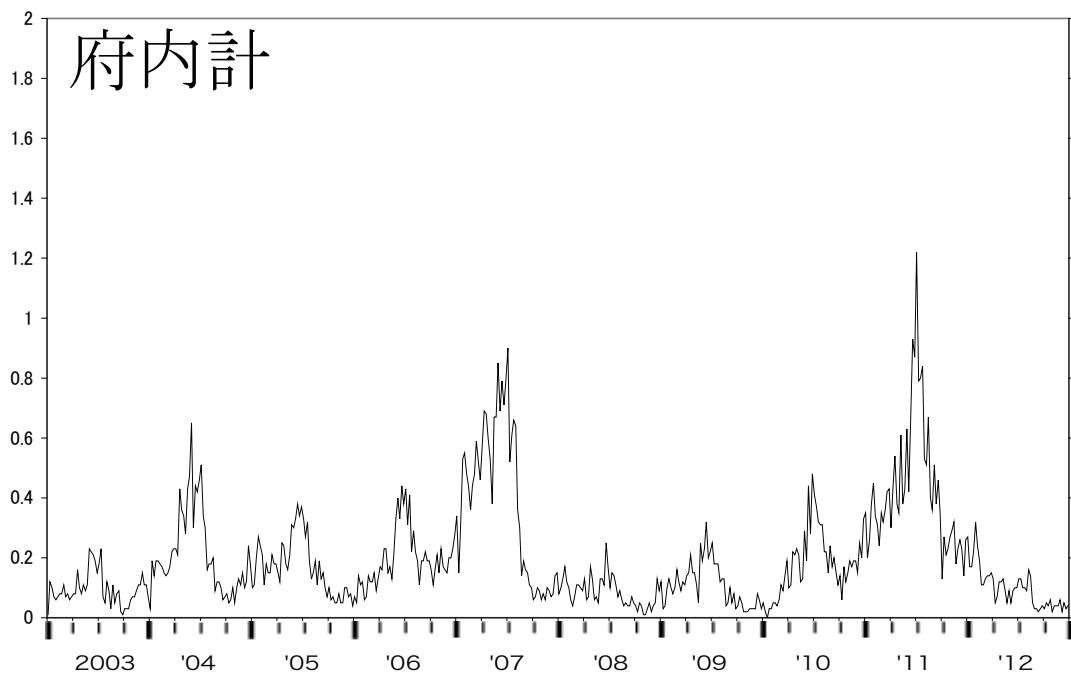
# 伝染性紅斑

線（H23年第1週～第52週）

棒（H24年第1週～第52週）



線（H15年第1週～H24年第52週）



## ●突発性発しん

平成24年の突発性発しんの報告数は5,418例で、前年の5,409例とほぼ同数であった。定点把握13疾患のうち第6位の報告数にあたり、総報告数136,606例に占める割合は4.0%で、前年度とほぼ同じであった。定点あたり報告数は0.53で前年度の0.53と同じであった。

昨年の週毎の定点あたり報告数を月毎の平均と標準偏差で見ると、平均の最高は7月の $0.69 \pm 0.05$ で最低は3月の $0.38 \pm 0.06$ であった。季節ごとの平均をみると、第1～13週（1～3月）では $0.40 \pm 0.06$ 、第14～26週（4～6月）では $0.57 \pm 0.1$ 、第27～39週（7～9月）では $0.64 \pm 0.09$ 、第40～52週（10～12月）では $0.51 \pm 0.09$ であった。例年と同じく冬場に低い傾向にあった。最高値の週は第30週（7月下旬）の0.74で、最低値の週は第52週（12月末）・第5週（2月初旬）の0.33であった。

年齢別の報告数は、0歳児が2,452例で全体の45.3%、1歳児2,534例46.8%、2歳児349例6.4%の順であり、年齢割合では昨年と比して0歳児2.7%減、1歳児1.2%増、2歳児8.7%増であった。0歳児が減少し1歳児と2歳児が増加する傾向がつついている。0歳児および1歳児で92.0%、2歳児を含めると98.5%となり例年どおりであった。

ブロック別の患者発生状況では、③北河内1,022例、④中河内784例、⑤南河内678例が多い。これを定点あたりで見ると⑤南河内0.81、④中河内0.75、③北河内0.70が多く、反対に⑨大阪市西部0.34、⑩大阪市東部0.36、②三島・⑥堺市0.39が少なかった。

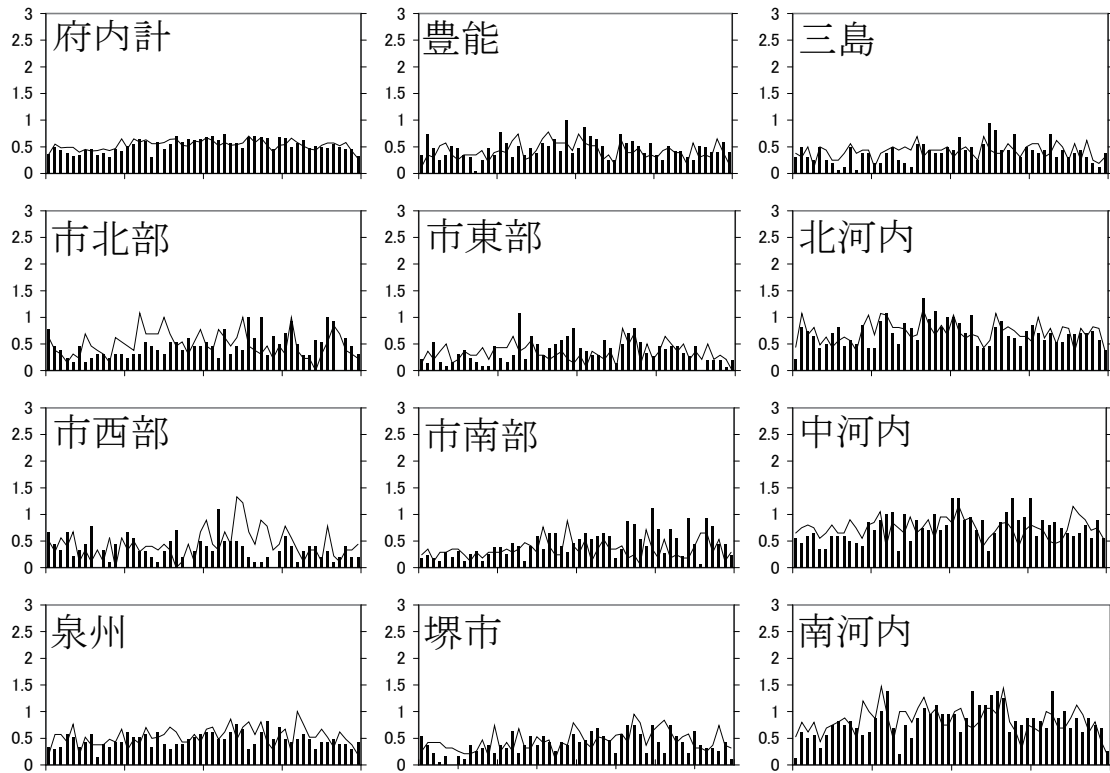
本疾患の特性としてブロック間の多寡は比較的生じにくいと考えられるが、各ブロック間で定点あたり報告数に最大2.4倍の差があった。定点医療機関における患者年齢の偏りや受診抑制の傾向がみられる地域性など報告精度に関するさらなる検討が必要と考えられた。

（文責：浅井）

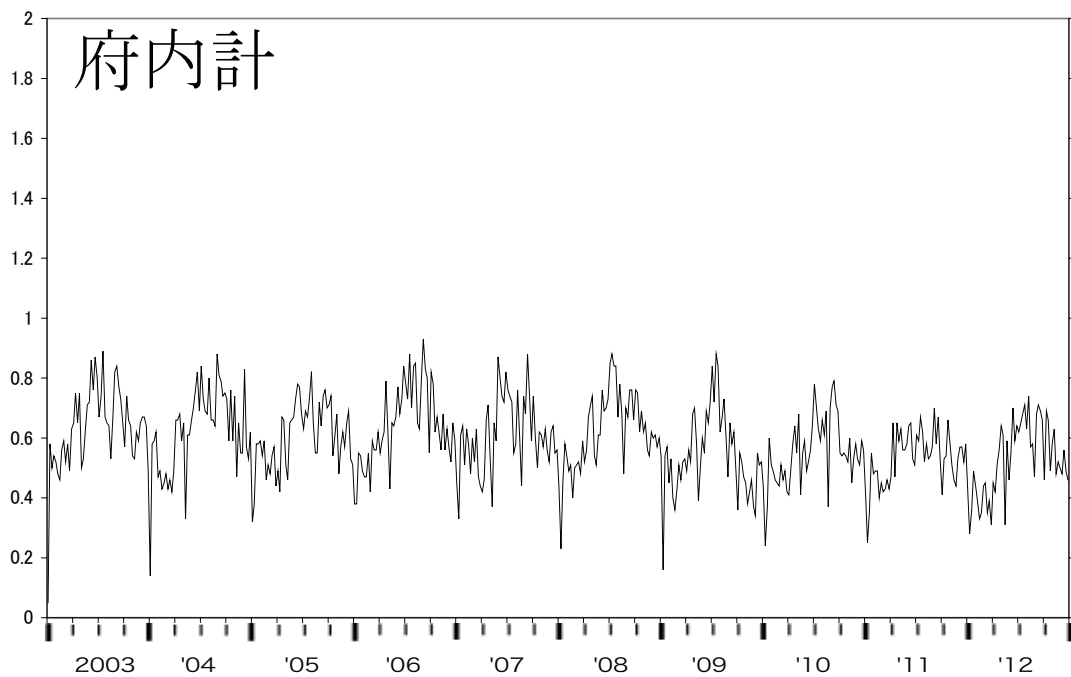
突発性発しん

線（H23年第1週～第52週）

棒（H24年第1週～第52週）



線（H15年第1週～H24年第52週）





## ●百日咳

平成24年の百日咳の報告数は275例で、前年の304例に比して9.5%減であった。これは総報告数の0.2%で小児科定点把握13疾患のうち第12位にあたり報告数は少ない部類に入る。大阪の報告数は全国集計4,087例の6.7%を占めている。

ここ5年間では平成20年364例、平成21年247例、平成22年263例、平成23年304例、本年275例で、一定の傾向は認められなかった。

週別の報告数をみると、週平均は5.3、定点あたり0.03であり全国平均0.03と同じだった。7月の週平均7.3が最も高く、次いで6月7.0、5月6.4とつづく。最も低かったのは12月の週平均3.3であった。例年同様に12月と1月が少なかった。

年齢別では、20歳以上が97例35.3%と最も多く、次いで0歳児41例14.9%、10～14歳31例11.3%、1歳児30例10.9%の順であった。昨年と同じく20歳以上と0歳にピークを持つ2峰性が認められた。昨年と比べて、20歳以上が73.2%増、0歳児が52.3%減、10～14歳が18.4%減、1歳児が11.8%減であり、20歳以上の比率が増加した。

ブロック別にみて報告数が多かったのは①豊能65例、③北河内54例、④中河内28例が多く、反対に⑨大阪市西部6例、②三島7例、⑧大阪市北部11例が少なかった。

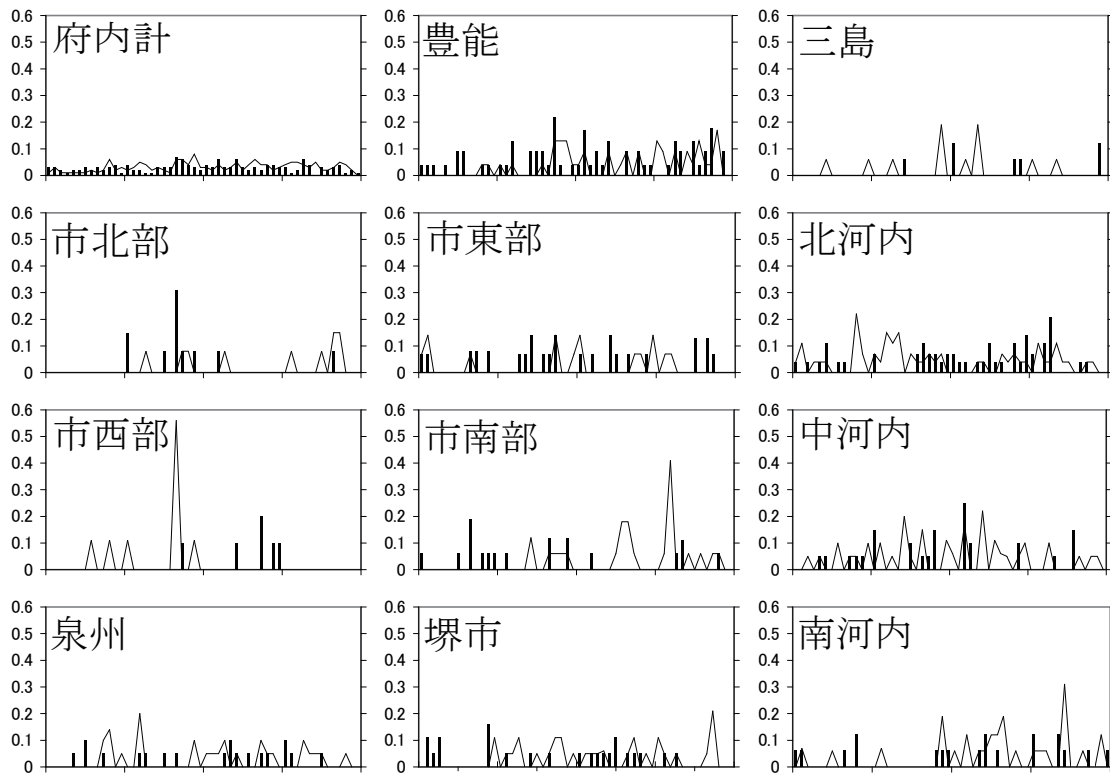
百日咳の診断には様々な問題点が指摘されている。国際的にもまだ臨床診断が主体になっていること、殆どの医療機関で百日咳菌の選択培地を常備できる態勢になっていないこと、抗PT-IgG抗体（EIA法）の保険収載に伴い血清診断精度の上昇が期待されるが乳幼児にペアー2回採血する困難さ / 三種混合（DPT）ワクチン接種児で抗PT-IgG抗体が高値をとること / 発病後2週間を超えると菌分離率が低くなることと初回採血で抗PT-IgG抗体中等高値とることが多いためペアー採血の診断が困難になる点が挙げられる。そのため、定点医療機関の採用する診断基準が異なっていることが推察される。報告数のばらつきにつながることから、遺伝子検査のLAMP法（Loop-mediated isothermal amplification）を早期に保険収載し、百日咳をさらに正確に診断できる態勢をつくることが望まれる。

（文責：浅井）

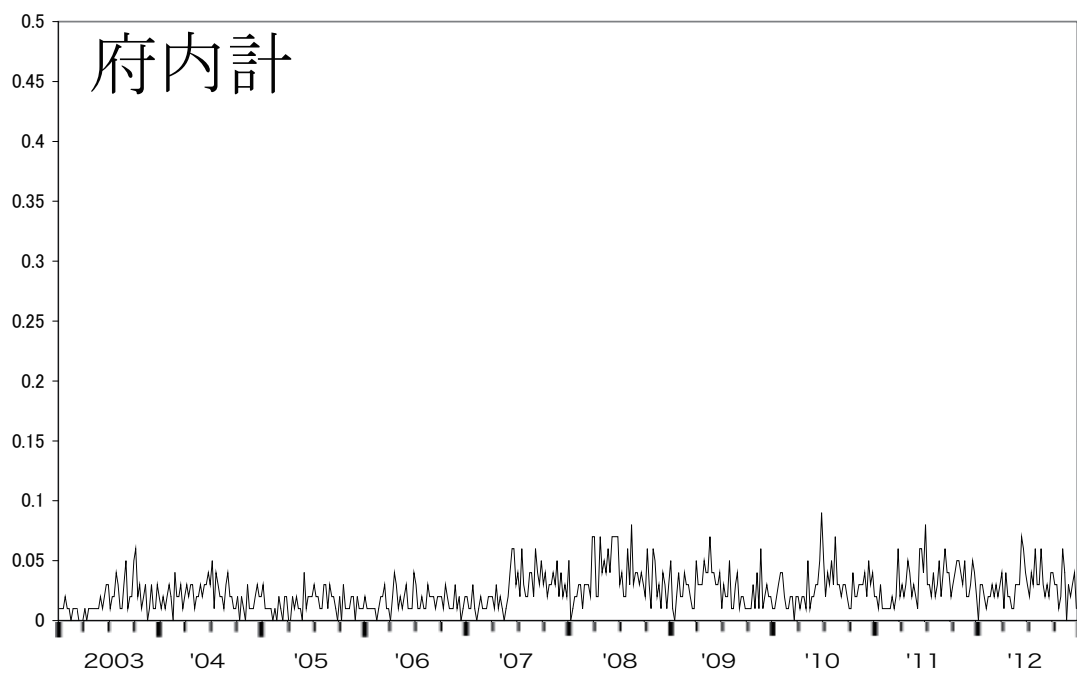
百日咳

線 (H23年第1週～第52週)

棒 (H24年第1週～第52週)



線 (H15年第1週～H24年第52週)



## ●ヘルパンギーナ

平成24年のヘルパンギーナの報告数は5,991例で、前年より204例3.5%増加し、総報告数の4.4%を占めた。対象疾患中昨年の第7位から第5位に上がった。定点あたりでは年平均0.59であった。

全国集計では、前年より24,530例減少の114,548例の報告があり、定点あたり0.70であった。報告数の順位は昨年の第5位から4位にあがった。

週別にみると、定点あたり報告数は、第1週から第19週までの期間0.02～0.05で推移し、第20週に0.18となり増加が始まり、第28週に4.05のピークに達した。その後は、ほぼ週を追って逡減し、第35週に1.0を切り0.88となり多少の増減はあるものの減少し続けた。第25週に報告疾患の第4位に入り、第29～30週に第1位となっている。第37週の第4位を最後に上位5疾患から外れた。

全国集計では0.09となった第19週より増加が始まり、第25週に定点あたり1.0を超え、第28週に4.43のピークに達し、第31週から減少し第37週以降は1.0を切っている。第29週から第31週にかけて、対象疾患の報告の第1位となっている。

年齢別報告数を見ると1歳25.7%、2歳20.4%、3歳14.8%、4歳11.6%、0歳8.9%、5歳7.6%、の割合で、0～4歳では4,873例となり全体の81.3%を占める。5歳以下を合計すると5,326例88.9%となる。例年と年齢分布には大きな変化は無い。

ブロック別でみると、第25週に⑦泉州1.48、③北河内1.29、⑪大阪市南部1.12、④中河内1.05、⑤南河内1.00が定点あたり1.0を超え、第27週には全ブロックが定点あたり1.0以上となった。第28から30週に各ブロックのピークがあり、それぞれの最高値は④中河内7.20、③北河内6.86、⑤南河内6.75、⑧大阪市北部5.46、⑦泉州4.90、⑨大阪市西部3.60、①豊能3.26、⑪大阪市南部3.24、⑩大阪市東部2.79、⑥堺市2.47、②三島1.63であった。

病原体検出の陽性率は32.4%であった。コクサッキー群はA4型が6月に1例、7月に2例、A2型が9月に1例、B2型が11月に1例検出されている。エコー群は7型が6月に1例、8月に3例検出された。

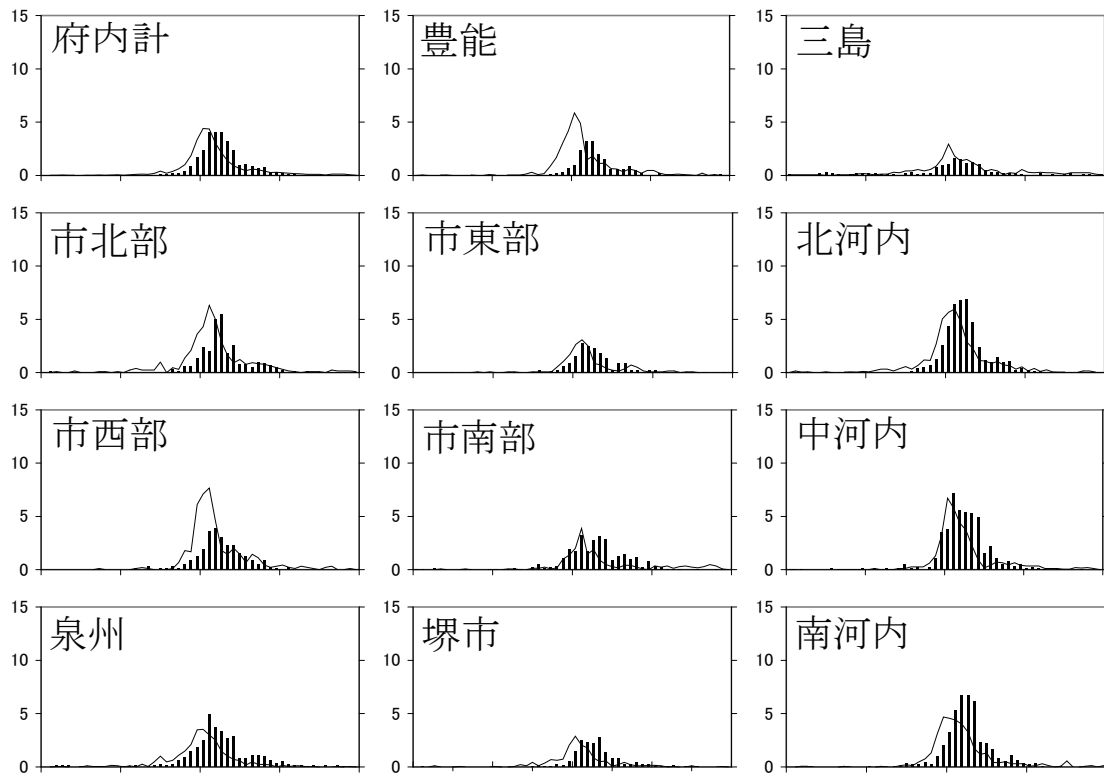
本疾患は6月末から7月にかけて流行の急峻な単峰性ピークを示す夏型感染症である。本年の流行は全体として、比較的典型的な流行パターンであったが、③北河内、⑤南河内、⑦泉州、⑧大阪市北部、⑪大阪市南部では、9月にも定点あたり1.0を超え、流行の終息が遷延した。

(文責：池原)

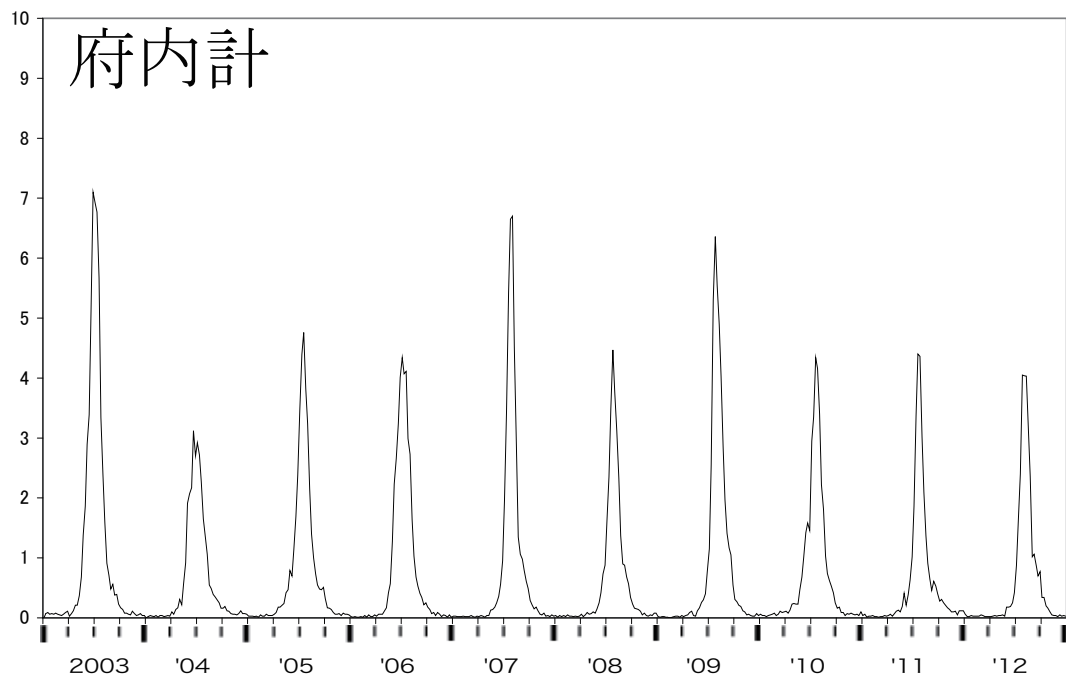
# ヘルパンギーナ

線 (H23年第1週～第52週)

棒 (H24年第1週～第52週)



線 (H15年第1週～H24年第52週)



## ●流行性耳下腺炎

### 1) 平成24年度の患者報告数と平成23年度の患者報告数との比較

平成23年の報告数は前年比61.0%減の2,536例で、総報告数の1.9%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は0.25で、順位は昨年(1.18)の第4位から第8位に下がった。

全国集計の定点あたりの報告数の年平均は0.44で、昨年(0.84)の第6位から第8位(0.44)に下がった。

### 2) 週別(月別)の定点あたりの報告数の推移

定点あたりの報告数は、週別では第36週の0.44がピーク値であった。夏季にやや多い傾向があったが、年間を通して大きな変動はなかった。

全国的には第1週の0.71がピーク値であった。

### 3) 年齢別患者発生数

年齢別患者発生数では4歳の431例が最も多く、以下、5歳(401例)、3歳(333例)、6歳(325例)と続き、3歳から6歳で全体の58.8%を占めた。

### 4) ブロック別患者発生数

定点あたりのブロック別年平均報告数の上位5ブロックは、③北河内(0.43)④中河内(0.33)①豊能(0.32)⑤南河内(0.26)⑧大阪市北部(0.24)の順であった。

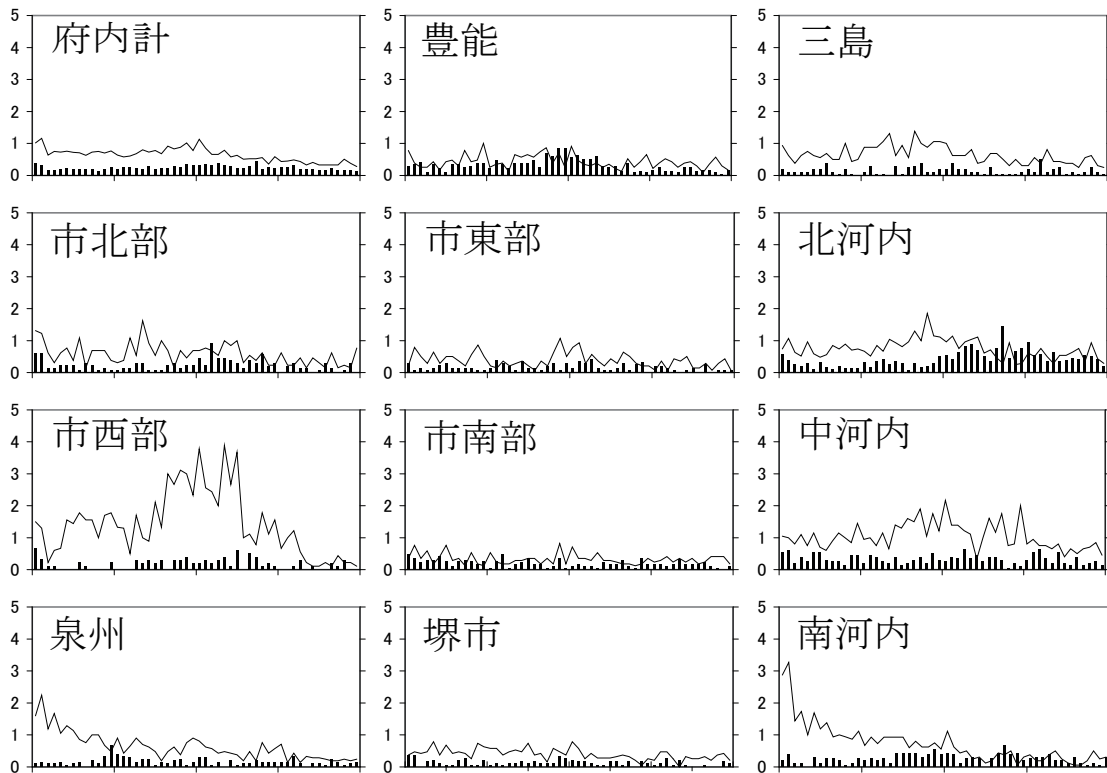
ブロック別・週別定点あたりの報告数の上位5ブロックは、③北河内(第36週、1.46)③北河内(第40週、0.96)⑨大阪市北部(第29週、0.92)⑤北河内(第31週、0.89)、①豊能(第23週・第25週、0.87)の順であった。

(文責：八木)

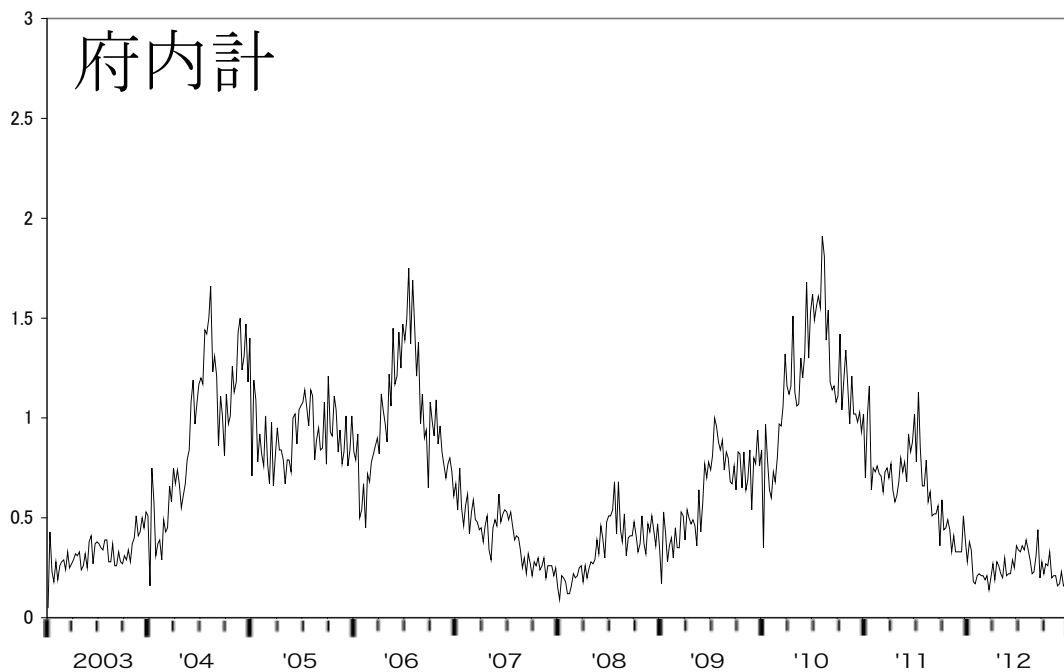
### 流行性耳下腺炎

線（H23年第1週～第52週）

棒（H24年第1週～第52週）



線（H15年第1週～H24年第52週）



### 3) 眼科定点把握疾患

#### ●急性出血性結膜炎

平成24年の急性出血性結膜炎の報告数は、37例で前年より3例増加し、一定点眼科医療機関あたり0.01であった。

週別発生状況では、府内合計で定点あたり最高が、第9週の0.09（4例）で、第12週、第22週の0.06（3例）、第13週、第16週、第21週、第24週、第43週の0.04（2例）が続いた。報告の無い週は27週あった。

年間平均ブロック別では、⑥堺市、⑦泉州が0.04で最も高く、次いで、④中河内0.02の順である。①豊能と⑪大阪市南部からの報告はなかった。

年齢別では、本疾患も流行性角結膜炎と同様に例年成人の発生が多く、20歳以上の報告数が33例と、全体の89.2%を占めた。

最近5年間の一眼科定点あたりの急性出血性結膜炎発生例件数

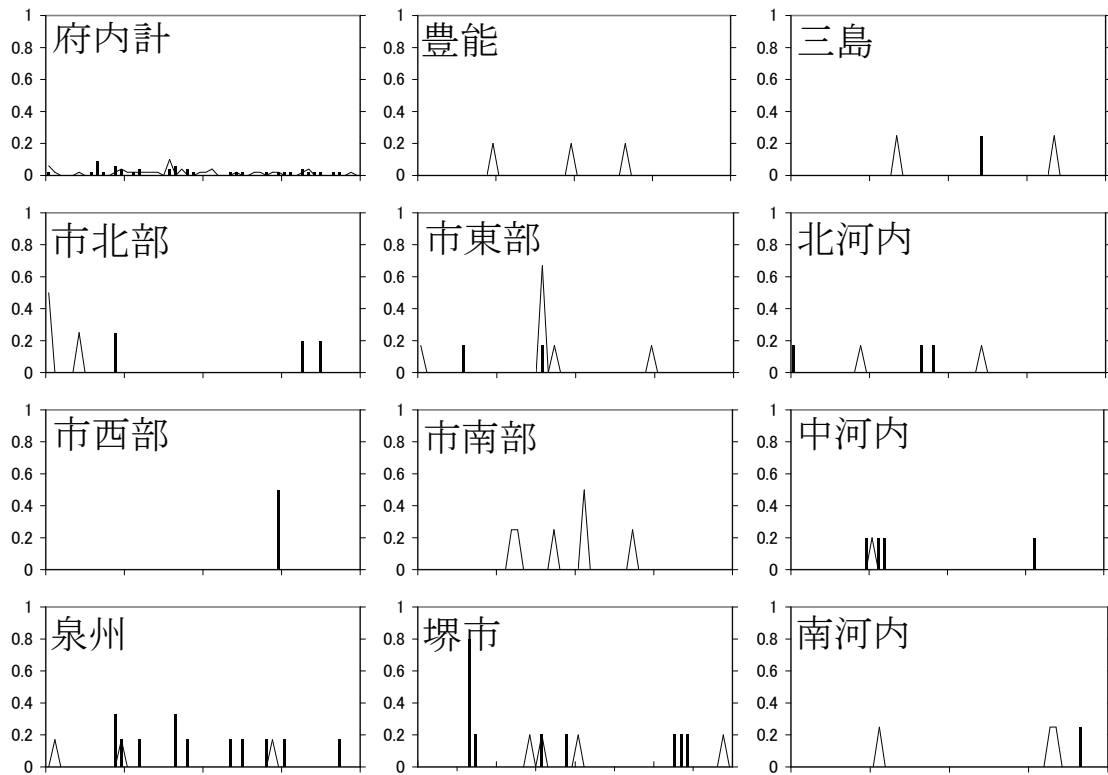
	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年
大 阪	0.02	0.01	0.02	0.01	0.01
全 国	0.02	0.01	0.02	0.13	0.01

（文責 笹部）

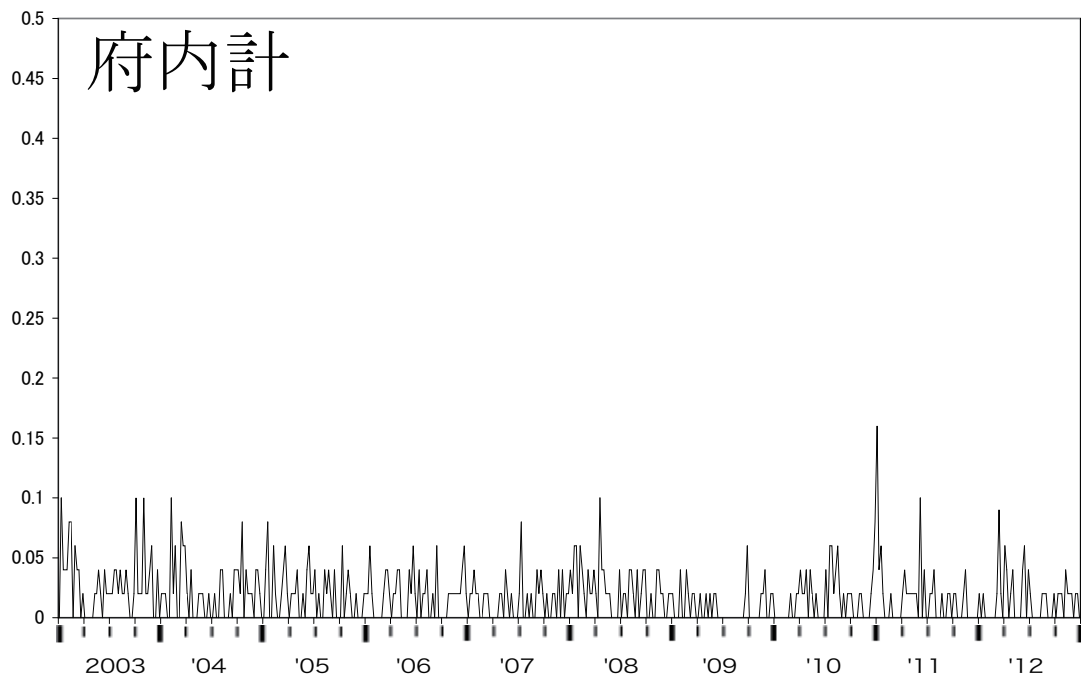
急性出血性結膜炎

線 (H23年第1週～第52週)

棒 (H24年第1週～第52週)



線 (H15年第1週～H24年第52週)





● 流行性角結膜炎

平成24年の流行性角結膜炎の報告数は598例で、一定点眼科医療機関あたり0.23であった。これは、前年の23.1%減の報告数であった。

週別発生状況では、府内合計で最も報告数の多かったのは、第49週の定点あたり0.44で、第36週の0.38がこれに続き以下、第35週、第44週、第52週が0.37、第38週、第51週が0.33であった。

本年は、例年夏季に多く発生するという本疾患の夏型感染症としての特徴が認められず、秋季から冬季にかけて報告の多い週がめだった。

週別ブロック別では、⑨大阪市西部第35週の3.0が最も高く、⑪大阪市南部第20週、⑨大阪市西部第52週の2.0、②三島第11週、第19週の1.75が続いた。

年間平均ブロック別では⑪大阪市南部が0.45と第1位で、次いで、②三島0.44、⑨大阪市西部0.37の順であった。最低は⑦泉州の0.13であった。

年齢別では、例年どおり成人（20才以上）の発生件数が多く、本年も563例と全体の75.3%を占めた。

本年も、大阪府内の定点あたりの報告数は、全国情報よりも低かった。

最近5年間の一眼科定点あたり流行性角結膜炎発生例数

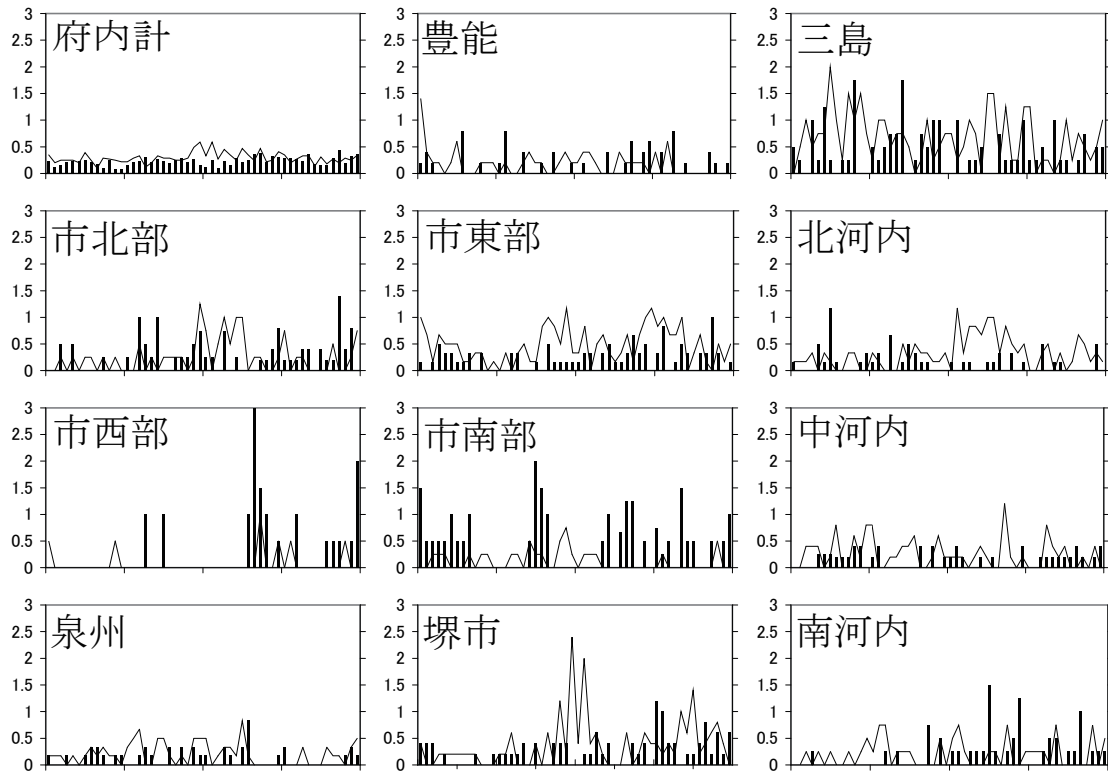
	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年
大阪府	0.30	0.17	0.42	0.30	0.23
全国	0.69	0.47	0.62	0.60	0.56

(文責 笹部)

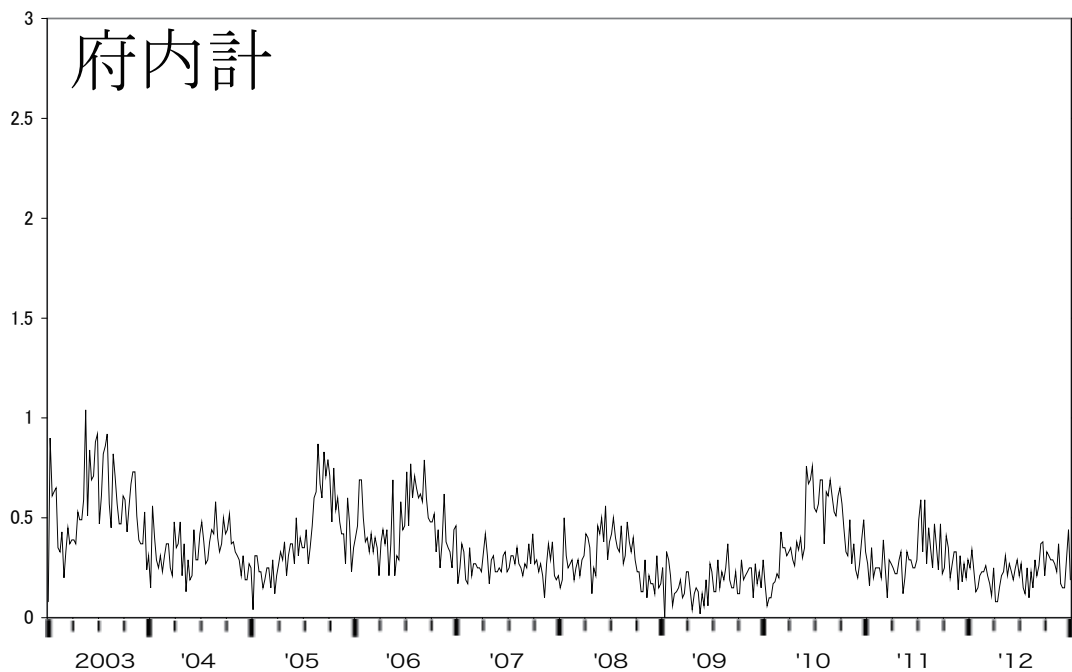
流行性角結膜炎

線 (H23年第1週～第52週)

棒 (H24年第1週～第52週)



線 (H15年第1週～H24年第52週)



#### 4) 基幹病院定点報告（週報）対象感染症

基幹病院定点報告（週報）対象疾患は、5類感染症の中の細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎（オウム病を除く）の4疾患である。

表には平成23、24年の大阪府・市の各基幹病院定点からの報告数を示した。基幹病院数は第1～4、6～7ブロックではブロック毎に2、第5、8～11ブロックでは1、合計で17である。4疾患の報告数は平成24年が971で、平成23年の1546から37.2%の減少であった。減少の要因はマイコプラズマ肺炎の減少であった。平成11年の事業開始時から上記4疾患の報告活動はブロック間・病院間で報告数の差が大きい。また、定点数は事業発足当初が8、平成24年は17と変化している。

以下に、各疾患について述べる。

##### ●細菌性髄膜炎

4ブロックと大阪市から18例が報告され、定点あたり1.1で、平成23年の57例に比し、68%減であったが、平成22年の18例、定点あたり1.1と同じであった。年齢は0歳4例、1～4歳が0例、5～9歳が2例、20～59歳が2例、60歳～10例であった。原因菌は、肺炎球菌、黄色ブドウ球菌、*Klebsiella oxytoca*が各1例、いずれも60歳代の症例であった。肺炎マイコプラズマが2例、いずれも5歳で原因菌と報告された。残る13例は原因菌陰性あるいは記載なし、であった。平成23年の原因菌はインフルエンザ菌は5歳以

ブロック (年)	細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎		マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	
	平成23	平成24	平成23	平成24	平成23	平成24	平成23	平成24
(1)豊能	8	1	20	11	17	18	2	1
(2)三島	4	6	6	6	458	205	1	1
(3)北河内	1		0	8	147	81	0	1
(4)中河内	16	2	0		126	177	0	2
(5)南河内	1		2	1	62	25	0	
(6)堺	10	6	4	11	251	133	2	5
(7)泉州	6		0		336	164	1	
大阪市	11	2	6	3	45	97	3	3
合計	57	18	38	40	1442	900	9	13
定点あたり大阪	3.8	1.059	2.53	2.353	96.13	52.94	0.6	0.765
定点あたり全国	1.2	1.01	2.27	1.98	36.51	49.99	1.43	1.9
定点数	15	17	15	17	15	17	15	17

下の4例、肺炎球菌は2例、肺炎マイコプラズマは22例などと報告され、原因菌が不明、記載なしが25例であった。大阪における平成23年の細菌性髄膜炎の多発は肺炎マイコプラズマ感染症に伴う髄膜炎を細菌性髄膜炎と報告したためであったと推測される。細菌性髄膜炎の原因菌としてインフルエンザ菌は平成19年～平成23年の5年間は毎年3～6例あったが平成24年はなかった。

全国集計では平成24年は473例の報告があり、定点あたり1.0、平成23年は491例、定点あたり1.1で平成24年は前年比15%減であった。全国集計では肺炎球菌13%、肺炎マイコプラズマ6%、B群レンサ球菌5%、インフルエンザ菌3%などが多く、42%は原因菌情報が不明となっている。主要原因菌であるb型インフルエンザ菌(Hib)のワクチン(アクトヒブ®)と肺炎球菌の共有結合型7価ワクチン(プレベナー®)は平成22年末「子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進事業」による5歳未満児への接種費用補助事業が開始された。この事業の効果を反映したためか、インフルエンザ菌による髄膜炎は平成23年の48例から平成24年は14例へ71%減となっている。(IDWR 2012:14(16):9-14 参照)。平成25年4月から、髄液または血液から菌の検出があれば「侵襲性インフルエンザ菌感染症」と「侵襲性肺炎球菌感染症」として5類疾患に追加し、「髄膜炎菌性髄膜炎」を「侵襲性髄膜炎菌感染症」に変更し、いずれも7日以内の全数届け出が求められている。また、基幹定点報告疾患である「細菌性髄膜炎」から、この3疾患が除かれることとなった。

### ●無菌性髄膜炎

5ブロックと大阪市から合計40例が報告され、定点当たり2.4で前年比5.2%増であった。年齢構成は0～4歳3例、5～9歳10例、10～19歳4例、20歳～29歳4例、30歳～39歳8例、40歳～49歳6例、50～59歳2例、60歳～3例であった。10歳未満が全体の33%と少ない。原因微生物としては肺炎マイコプラズマ8例、ムンプスウイルス2例、単純ヘルペスウイルス1例、陰性と記載なし29例であった。一方、平成24年の本報告書ウイルス検査結果では無菌性髄膜炎患者からエコー7の16例、エコー6の7例などが多く分離されていた。無菌性髄膜炎は平成19年以後流行がない。

全国集計では平成24年は926例の報告があり、定点あたり1.98、平成23年1052例の報告で定点あたり2.27であり、12%減であった。原因ウイルスではエコー6の21%が多く、エコー7の11%、コクサッキーB5の11%、などであった(IASR 2013.5.6)。

●マイコプラズマ肺炎

全ブロックから900例の報告があり、定点あたり52.9で、平成23年の38%減であった。今回の流行は平成22年定点あたり42.7から始まり、平成23年同96.1がピークであった。流行前の平成21年は同22.8であった。ブロック別では②三島23%、④中河内20%、⑦泉州18%、⑥堺15%からの報告が多く、平成23年に比し、①豊能、④中河内と大阪市が増加し、他のブロックは減少した。年齢は図1-1に示すように年齢分布は0～4歳33%、5～9歳38%、10歳～14歳19%であった。平成23年に比し0歳～4歳

図1-1 マイコプラズマ肺炎の年齢分布

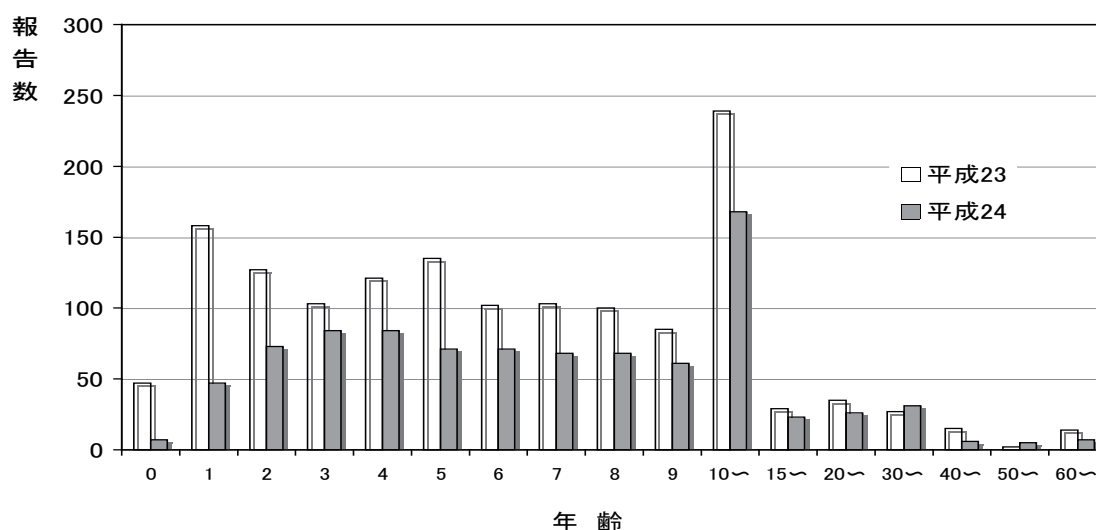
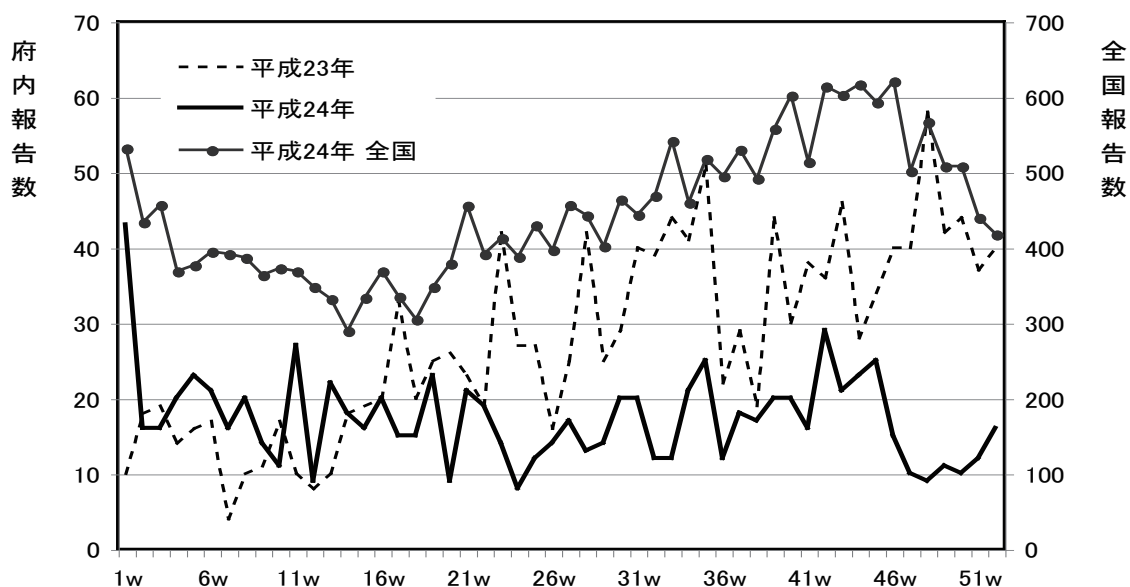


図1-2 マイコプラズマ肺炎の週別報告数



で47%減、5歳～9歳35%減、10歳～14歳30%減であった。平成23、平成24年の週別分布と平成24年の全国週別報告数を図1-2に示した。非流行時には週当たりの報告数は10未満であるが、平成22年夏から報告数が増加し、平成23年は3月には一時減少したが、4月以降は増加し、とくに7月下旬以降は毎週の報告数が40例を超える週が多く、12月初めの48週に58例の本事業でのピーク報告数を記録した。平成24年は年間を通して毎週10～20の報告があり、42週の29例が最多であった。

全国ではマイコプラズマ肺炎の流行する年は秋以後に明瞭な増加がみられ、最近では平成18年秋と平成22年秋の患者増がみられていたが、定点あたり年間報告数では平成18年～平成22年は18.2～22.4であり、大きな差はなかった。定点あたり年間報告数は平成23年36.5、平成24年50.0と著しく増加し、全国的流行であるが、大阪は平成23年が今回の流行のピークであった。1990年代はじめまで日本では4年毎の流行周期がみられたが、諸外国では4～5年の流行周期の持続していると報告されている。日本では肺炎マイコプラズマのマクロライド耐性率は年々上昇し、大阪でも平成23年にはマクロライド耐性率は80%を超えた、という報告もある。マクロライド耐性肺炎マイコプラズマが多数をしめるようになって、日本でもマイコプラズマ肺炎は再び周期的な流行を示すのであろうか、今後の動向が注目される。

#### ●クラミジア肺炎（オーム病を除く）

平成24年は13例の報告で、定点あたり0.8、平成23年の44%増であった。全国集計では886例の報告で、定点あたり1.9で、平成23年の34%増であった。

（文責：塩見）

## 5) 基幹定点（月報）対象感染症

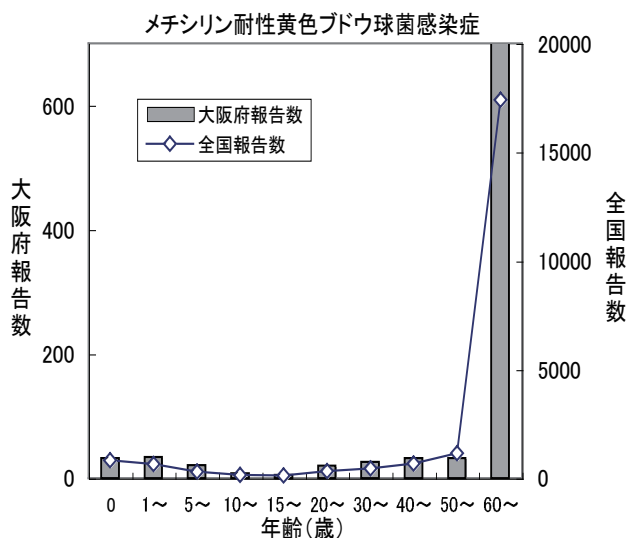
基幹病院定点報告（月報）対象疾患は、院内感染対策に問題となりうる薬剤耐性菌が起こす、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の4疾患である。

基幹定点（月報）対象感染症を報告する大阪府内の基幹病院定点数は、16である。

### ●メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

全てのブロックから前年比40.1%増の940例の報告があった。全国情報(NESID年報平成25年3月2日現在)では前年比5.9%減の22,062例の報告があり、大阪府の報告数は、全国の4.3%であった。

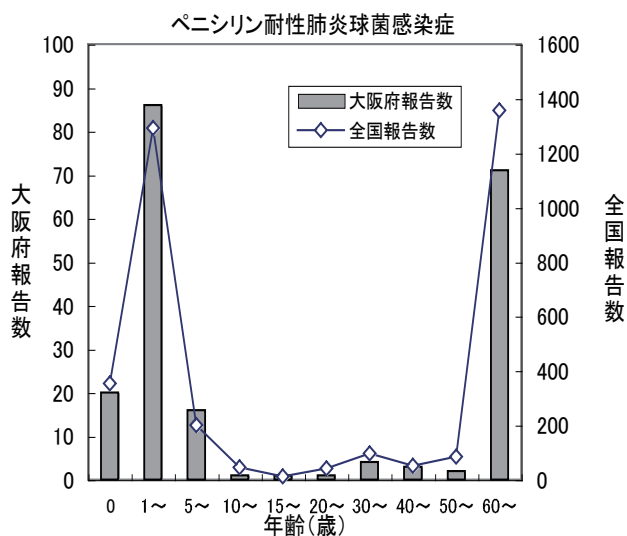
年齢別構成は0歳32例、1～4歳34例、5～9歳21例、10～14歳8例、15～19歳5例、20～29歳20例、30～39歳26例、40～49歳32例、50～59歳32例、60歳以上730例であり、60歳以上が77.7%を占めた。これは前年と同様で全国的にも同じ傾向である。



### ●ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

③北河内、⑦泉州、⑧大阪市北部、⑩大阪市東部を除く7ブロックから、前年比13.9%増の205例の報告があった。全国情報(NESID年報平成25年3月2日現在)では、前年比23.9%減の3,532例の報告があり、大阪府の報告数は、全国の5.8%であった。

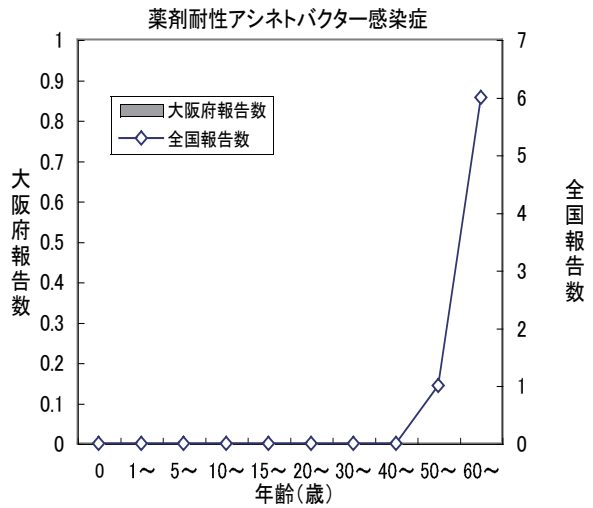
年齢別構成では0歳20例、1～4歳86例、5～9歳16例、10～14歳1例、15～19歳1例、20～29歳1例、30～39歳4例、40～49歳3例、50～



59歳2例、60歳以上71例であり、0～4歳までと60歳以上が多く、それぞれ51.7%と34.6%であった。これは前年と同様で全国的にも同じ傾向である。

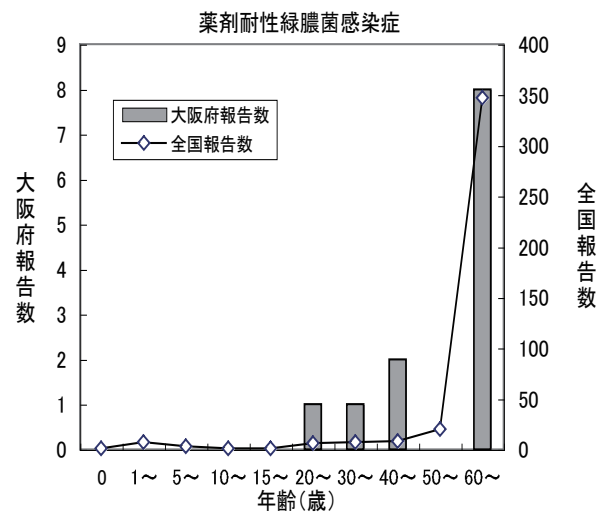
●薬剤耐性アシネトバクター感染症

薬剤耐性アシネトバクター感染症の大阪府内の報告数はなかった。全国情報（NESID年報 平成25年3月2日現在）では、7例の報告があり、年齢別構成は、50～59歳1例、60歳以上6例であった



●薬剤耐性緑膿菌感染症

薬剤耐性緑膿菌感染症は報告数が少なく、①豊能、②三島、⑤南河内、⑪大阪市南部の4ブロックから12例の報告があり、前年の報告13例より減少した。全国情報（NESID年報 平成25年3月2日現在）では、前年比16.6%減の401例の報告があり、大阪府内の報告数は全国の3.0%であった。



年齢別構成は、20～29歳1例、30～39歳1例、40～49歳2例、60歳以上8例で、60歳以上で66.7%を占めた。全国では若年層の報告も若干数見られるが、大阪府では20歳未満の報告はなかった。

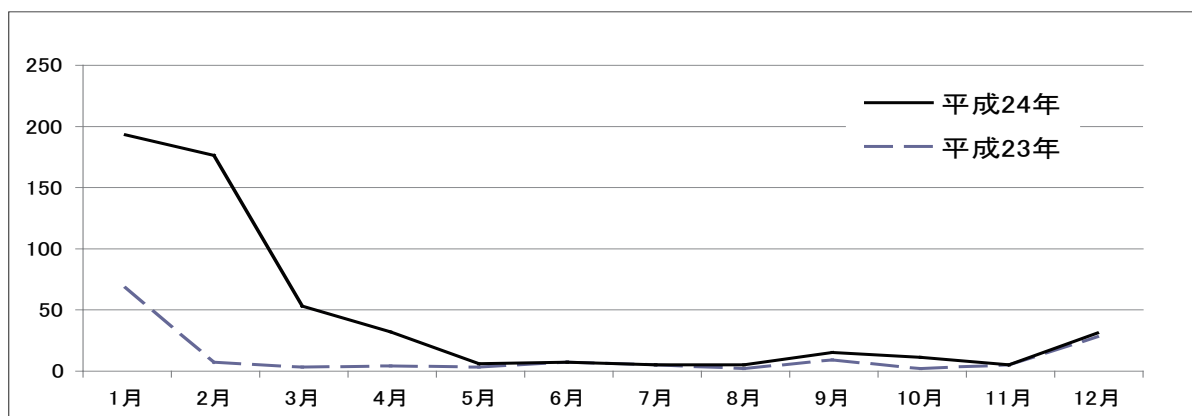
(文責：川原)



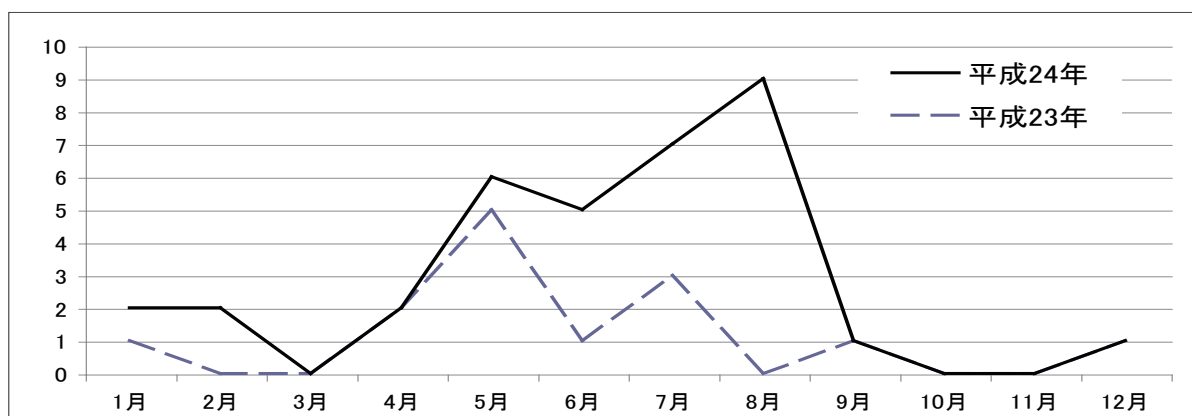
## 6) 厚生労働省令で定める疑似症

厚生労働省令で定める疑似症第1号は、①摂氏38度以上の発熱及び②呼吸器症状の両者を呈し、かつ、それらの症状が明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものではない状態を指す。平成24年の指定届出機関からの報告数は396例であり、前年の131例に比し265例(202.3%)増加していた。男女比は1.06:1であった。月別報告数は2月169例が最も多く、次いで1月125例と多かった。年齢別報告数では4-5歳が92例と最も多く、次いで2-3歳、6-7歳の62例であった。3歳以下は107例(27.0%)であり、前年の23.7%と比べ全体に占める割合は同程度であった。

疑似症第1号(38°C以上の発熱と呼吸器症状)の届け出数



疑似症第2号(37.5°C以上の発熱と発疹または水疱)の届け出数



疑似症第2号は①発熱(摂氏37.5度以上)及び②発しん又は水泡の両者を呈する状態を指す。平成24年の指定届出機関からの報告数は21例であり、前年の14例に比し7例の増加であった。男女比1.6:1であった。月別報告数では8月9例、7月4例、6月4例と夏に報告数が多かった。年齢別報告数では20-29歳が10例と最も多く、次いで30-39歳が4例であった。

(文責 田中)